講義科目名称： 教育原理

授業コード： 111005

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、これからの教育学研究・教育実践の基礎となる教育の原理についての学修を行う。一般的に「原理」とは、「ものの拠って立つ根本法則」を意味する。本授業では、この「原理」の対象として、これまでの教育を成り立たせてきた思想、学説、制度などを取り扱う。本授業では、教育の原理に関するテキストをもとに他者とのディスカッションすることを通じて、上記の原理についての学びを深めることを目指す。学習成果指標：A-②、③/B-②、③。なお、原則、対面授業であるが、遠隔授業となった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）とオンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。
授業計画	<p>1回目 本講義の進め方（オリエンテーション）、教育の意義</p> <p>2回目 発達と教育</p> <p>3回目 教育目的</p> <p>4回目 教育課程</p> <p>5回目 教育の方法</p> <p>6回目 特別活動</p> <p>7回目 生徒指導</p> <p>8回目 学校経営・学級経営</p> <p>9回目 教員</p> <p>10回目 教育制度</p> <p>11回目 教育法規</p> <p>12回目 教育行政</p> <p>13回目 教育思想</p> <p>14回目 現代社会と教育</p> <p>15回目 本授業の総括</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の意義や目的を多様な視点から捉え、理解することができる。 ・教育課程や教育方法について、歴史的経緯を踏まえながら、多様な視点からそれらについての理解を深めることができる。 ・学校経営や教員研修の意義やそれらを成り立たせている制度への理解を深めることができる。 ・西洋の教育思想や日本教育史等から、我が国の教育の歩み及び現状を把握し、目指すべき将来の姿への考えを深めることができる。
授業時間外の学習	本授業は、テキストをもとに実施する。事前に該当する箇所を読み、おおよその内容を把握するとともに、疑問点などを整理しておく。また、事後においては、講義で取り扱った指導や学説、制度等で興味をもったことに対して、さらに詳細を調べたり、関係書物を読んだりし、より理解を深めるようにする。
評価方法	授業への参加意欲（30%）、課題提出及び授業後のレポート（70%） 遠隔授業になった場合も、評価方法に変更なし。
テキスト	湯川次義・久保田英助・奥野武志編著『最新 よくわかる教育の基礎』（学文社、2019年）
参考書	授業の中で、適宜推薦します。
備考	諸般の事情（授業進度や学習状況）により、授業計画を変更する場合がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>総合的な学習の時間の創設の背景を理解し、その目標及び内容、そして各学校の特色を生かした総合的な学習の時間の在り方についての理論を学ぶ。また、総合的な学習の時間の指導法については、各自、教育実習校や母校等の現在の総合的な学習の時間の実施状況を調査し、それをもとにグループワークを行い、主体的対話的な深い学びを目指す探究学習の在り方やポイント等について議論を深める。その上で、総合的な学習の時間の年間指導計画や単元計画の設定方法、効果的な学習指導の工夫や留意点についての理解を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 「総合的な学習の時間」創設の背景</p> <p>2回目 総合的な学習の時間の目標と構成の趣旨</p> <p>3回目 各学校が定める目標</p> <p>4回目 各学校が取り扱う内容</p> <p>5回目 指導計画作成にあたっての配慮事項</p> <p>6回目 内容の取扱いについての配慮事項</p> <p>7回目 総合的な学習の時間の指導法の探究①（地域・児童の実態と単元の取扱い）</p> <p>8回目 総合的な学習の時間の指導法の探究②（探究学習に関わる教師の留意点）</p> <p>9回目 総合的な学習の時間の指導法の探究③（主体的・対話的な深い学びのための留意点）</p> <p>10回目 年間指導計画と単元配列</p> <p>11回目 総合的な学習の時間の多様な指導法</p> <p>12回目 単元計画の作成</p> <p>13回目 総合的な学習の時間の学習評価</p> <p>14回目 総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり</p> <p>15回目 まとめと振り返り</p>
到達目標	<p>総合的な学習の時間の創設の背景と関連づけながら、総合的な学習の時間の目標及び内容の設定の意味を理解することができる。児童生徒が主体的に探究学習に取り組めるよう、各学校の実態を踏まえた特色ある年間指導計画及び単元計画を設定していることが理解できる。総合的な学習の時間の現状や課題を把握するための調査や課題解決のためのディスカッションを通して、単元計画や学習指導法、評価方法等についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>シラバスをもとに予習を行うとともに、学習した内容はテキストで再度復習し、内容の定着を図る。また、総合的な学習の時間の指導法についての議論を深めるため、各自、教育実習校や母校等で聞き取りを行い、取り組みの現状のよさや課題を整理しておくようにする。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）、レポート（70%）。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省、平成29年、東洋館出版（人間教育学科の学生）</p> <p>『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省、平成29年、東山書房（日本文化学科の学生）</p>
参考書	<p>朝倉 淳・永田忠道共著『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』（学術図書出版社、2019）</p> <p>その他、必要に応じてプリントを配布する。</p>

備考	実務教員：初等教育・中等教育前期学校の教諭及び管理職、市教育委員会行政職や教育研究所主事として38年間勤務。
----	--

講義科目名称： 教師論

授業コード： 155003

英文科目名称： Principles and Methods of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスタ	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
鈴木廣志 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育の担い手である教員は、幼児、児童生徒個々の人生に大きく関わるかけがいのない職務を日々務めることになる。しかし、そこには「子どもたち・保護者から信頼されなければ話を聞いてもらえない、信頼されても、教えるべき・伝えるべき専門的力がなければ教えられない」という厳しさが現存しており、だれもが希望すればなれる職業ではない。</p> <p>そこで本講義は、教師たる資質・能力（いわば条件）を学校現場の視点から考察し、教員に求められる今日の資質、能力や職務を理解するとともに、教員免許を取得し教職に就こうとしている自己の適正等について、客観的な考察を図るものである。なお、学習成果の指標はB-②と③である。</p> <p>諸般の事情で遠隔授業になった場合は、Google Classroomを活用した①課題型学修と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1 回目 教職ってなんだろう？～オリエンテーション～</p> <p>2 回目 教職について考えてみよう！～教職の意義～</p> <p>3 回目 思い出の教師ってどんな人だったのか？～教職観と理想の教師像～</p> <p>4 回目 教員養成はどこで行われているのか？～教師と教員養成の歴史～</p> <p>5 回目 教師の不祥事はなぜ発生するのか？～教員の任用と服務～</p> <p>6 回目 学校で働く人はどんな人なのか？～教師の役割と仕事</p> <p>7 回目 学校のリーダーについて考えてみよう！～管理職・主任の役割～</p> <p>8 回目 教師はブラックな職種なのかを考えてみよう！～教師の職場環境～</p> <p>9 回目 プロフェッショナルな教師ってどんな教師？～専門職としての教師～</p> <p>1 0 回目 「学び続ける教師」ってどんな教師だろう？～教師の資質向上と研修～</p> <p>1 1 回目 教育実習を学ぶ～教育実習の意義と心得～</p> <p>1 2 回目 いじめや不登校に向き合う学校・教師</p> <p>1 3 回目 発達障害の児童生徒・外国籍の児童・生徒を巡る学校・教師</p> <p>1 4 回目 「教える」ことと「学ぶこと」 ～現場の教師との対話～</p> <p>1 5 回目 「まとめ」と自己考察 ～教職への進路選択を考える～</p>
到達目標	<p>幼児、児童の教育を担う教師に求められる基本的な資質・力量について、具体的に理解することができる。</p> <p>社会的な信頼感として求められる人間性や服務上の義務等についての理解と自己の考察ができる。</p> <p>生徒指導や学習指導等についての基礎的事項や幼児教育との関連・連続性、実践的内容について理解できる。</p> <p>教員免許状の取得・教職を目指す自己の適正を分析できる。</p>
授業時間外の学習	<p>当日の講義時で使用（配布）したレジュメを基に、授業内容を改めて整理する。（分かったこと さらに調べたいこと 再度確認：質問したいこと 等）</p> <p>新聞等で報道される教育問題について、常に関心を持ち、主体的に考えられるようにし、講義内容に照らし、議論できるようにする。</p>
評価方法	<p>課題レポート・課題シートの提出（60%）・授業への参加意欲（40%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>

テキスト	佐藤晴雄編『教職概論（第6次改訂版）』（学陽書房）2022年 レジュメ（資料）を配布する。遠隔授業になった場合はGoogle Classroomを活用して、資料を配付しレポート課題を提示する。
参考書	佐久間亜紀・佐伯胖『現代の教師論』（ミネルヴァ書房、2020年） その他、授業の中で適宜紹介する。
備考	栃木県公立小中学校教諭（12年間の行政経験・8年間の管理職としての実務経験）更には、大学・学会等での研究実践、文部科学省CSマイスターとしての経験をもとに、教職を目指す学生のサポートを行い、教職の在り方について一緒に考えていきたい。

講義科目名称： 教育心理学

授業コード： 122004

英文科目名称： Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講義では、学校教育の現場でいかにこのできる教育心理学の知識を身につけ、将来の教育実践活動のための基礎力の向上を到達目標とします。</p> <p>教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。本講義の目標は、教育心理学の基礎的な知識を身につけることにあります。また、教育という営みを分析する視点は種々ありますが、心理学的な見方や心理学的な考え方に基づいて議論できるようになることを目標として講義を行います。本講義を通して、将来の教育実践場面において生徒理解を助ける基礎的な心理学的視点を獲得し、活用できるようになることを望みます。</p> <p>本講義の学習成果の指標はA-③及びB-②、③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。</p> <p>また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。加えて、講義の一部では反転学習を行う場合がある。講義を受講する前にあらかじめオンデマンド課題等で学習を済ませて、講義時間中には議論や討議、発表などを行う学習方式である。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 講義の進め方についての説明と教師の役割について</p> <p>2回目 親子関係 子どもの人間関係に就学する前に影響を与える要因</p> <p>3回目 道徳観の発達 各発達段階に合わせた道徳指導</p> <p>4回目 学習理論 学習者の学び方・教室における学習理論の応用</p> <p>5回目 教授活動 種々の教授法</p> <p>6回目 学習の評価の仕方 種々のテスト</p> <p>7回目 学習の評価の意義 誰のための何のための評価なのか?</p> <p>8回目 動機づけ 学習活動を高める動機づけ</p> <p>9回目 知能と学力 知能指数と達成学力の乖離</p> <p>10回目 自己意識の発達 自己意識の発達と対人関係</p> <p>11回目 学級集団 集団の形成とその利用</p> <p>12回目 学校不適応 いじめや学級不振</p> <p>13回目 心理療法 学校におけるカウンセリングと行動療法</p> <p>14回目 特別支援教育 発達障害の事例</p> <p>15回目 特別支援教育 具体的な指導方法について</p>
到達目標	<p>【学修到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実践場面にかかすことのできる教育心理学について理解する。 2. 教育心理学の観点から教育活動を分析し、理解する。 3. 教育心理学の知識を活用し、自らの教育実践活動を立案し、実行する基礎的な力を身につける。
授業時間外の学習	<p>講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い、積極的に学びを深めること。</p> <p>【事前学修】 30 分程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み、回答を行ってから講義へ参加してください。 2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み、内容理解を深めること。

	<p>【事後学修】 30 分程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。 2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。 <p>各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。</p>
評価方法	<p>【評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実践場面にいかすことのできる教育心理学の知識を身につける。 2. 講義にて学んだことを元に、教育活動を分析し、説明することができる。 3. 講義にて学んだことを元に、自らの教育実践活動を具体的に立案、計画できる。 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学修の提出と回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. 小テスト、レポート、課題などの提出物 50 % <p>※オンラインや遠隔での講義となった場合にも基本的な評価観点は対面での講義と同様とする。</p> <p>上記の 3 点から評価をします。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠します。評価方法・基準の詳細については、初回の講義にて説明します。</p>
テキスト	<p>古川 聡・福田由紀編著 (2006). 子どもと親と教師をそだてる教育心理学入門 丸善株式会社 (2,400 円)</p> <p>ただし、講義の中でテキストを開き、読み合わせをするようなことはありません (限られた講義時間を有効に利用するため)。テキストは事前事後学修への回答のため、講義時間では呈示しきれない情報の補填のために用います。</p>
参考書	<p>・渡辺弥生・小林朋子編著 (2009). 10代を育てるソーシャルスキル教育 北樹出版 (2,000 円)</p> <p>・山本淳一・池田聡子編著 (2007). できる!をのぼす行動と学習の支援—応用行動分析によるポジティブ思考の特別支援教育 日本標準 (2,100 円)</p> <p>他にも適宜紹介します。</p>
備考	<p>【指導方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。 2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく、講義内での積極的な発言、参加を高く評価します。 3. 質問は講義前後の時間、毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。 4. 通常は講義形式で行うが、グループ討論や演習などを行うので積極的に参加すること。 <p>本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する場合がある。</p> <p>また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。</p>

講義科目名称： 特別支援教育

授業コード： 113005

英文科目名称： Special Support Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>新学習指導要領では、急増する特別な配慮を必要とする児童生徒に対して、その障害や特性に応じた配慮と指導法の工夫と教師間の連携の必要性が明示されている。本授業ではこれらのポイントを具現化するために必要な教師の特別支援教育への理解と支援のあり方について広く学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 特別支援教育の理念および制度、歴史</p> <p>2回目 障害の概念とインクルージョン</p> <p>3回目 新教育要領・新学習指導要領における特別支援教育の概要</p> <p>4回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（視覚障害/聴覚障害）</p> <p>5回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（肢体不自由/病弱）</p> <p>6回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（知的障害①）</p> <p>7回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（知的障害②）</p> <p>8回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（広汎性発達障害/知的障害を伴う自閉症）</p> <p>9回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（広汎性発達障害/知的障害を伴わない自閉症）</p> <p>10回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（注意欠陥多動性障害）</p> <p>11回目 特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援（学習障害/言語障害）</p> <p>12回目 障害は無いが特別な教育的支援を必要とする子どもの理解と支援</p> <p>13回目 通級による指導・特別支援学級・特別支援学校・自立活動</p> <p>14回目 個別の指導計画・個別の教育支援計画</p> <p>15回目 これからの特別支援教育における主体的な学びの実践</p>
到達目標	<p>日本における特別支援教育に関する基本的内容を理解することができる。</p> <p>障害に対する正しい知識を身に付け、特性に応じた支援方法を考えることができる。</p> <p>障害に対する見方、考え方の基礎を培い、教師としての優れた人権感覚の基礎を身に付けることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>事前に講義予定の内容を予習し、疑問点を確認しておく。</p> <p>教育実習やボランティア活動を通して、障害児の実態や状況を理解し支援のあり方等を自主的に考え積極的に関わる。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲・態度（30%）、課題提出（70%）等に基づき総合的に評価する。遠隔授業になっても評価方法については同じである。</p>
テキスト	<p>教科書は使用せず。</p> <p>資料は適宜配布する。</p>
参考書	<p>授業時に適宜紹介する。</p>
備考	<p>シラバスにおける障害名の表記については、文部科学省が採用している障害名に準拠している。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
鈴木廣志 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育課程は、園及び学校の教育活動の基本計画であり、各園や学校には、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、実施することが期待されている。本講義では、幼稚園教育要領・学習指導要領と創意ある教育課程の事例を基に、教育課程の意義や編成の方針などについて具体的に理解を深め、教育課程を編成する力量を培う。</p> <p>授業では、講義とともに、グループワーク等も行い、主体的・協働的に取り組む力の育成もねらいとする。なお、学習成果の指標はB-②と③である。遠隔授業を実施する場合は、Google Classroomを活用した①課題学習となる。</p>
授業計画	<p>1回目 教育課程の定義—狭義の教育課程から広義の教育課程へ</p> <p>2回目 学習指導要領の性格とその歴史①——戦後教育改革と学習指導要領（1947年・1951年）</p> <p>3回目 現代社会における教育課程の意味——法的位置づけと教育計画の重要性</p> <p>4回目 教育課程編成の基本原則①——教科中心カリキュラムの原理</p> <p>5回目 教育課程編成の基本原則②—経験カリキュラムの原理</p> <p>6回目 教育課程編成の基礎①——教育課程編成に関する法令の基本</p> <p>7回目 教育課程編成の基礎②——地域・学校の実態と教育課程編成</p> <p>8回目 教育課程編成と教材研究①——学年・単元を見通した指導計画の必要</p> <p>9回目 教育課程編成と教材研究②——教授法と教育課程（含むアクティブ・ラーニング）</p> <p>10回目 教育課程評価の基礎——教育におけるPDCAサイクル</p> <p>11回目 教育課程編成の実際① 幼稚園・小学校の事例から（幼・保・小の接続について）</p> <p>12回目 教育課程編成の実際② 中学校の事例から（キャリア教育と進路指導の充実）</p> <p>13回目 教育課程編成の実際③ 特別支援学級の事例から（特別な配慮を必要とする子どもへの指導）</p> <p>14回目 学校経営と教育課程（カリキュラム・マネジメントの必要性）</p> <p>15回目 教育課程論 まとめ—教育課程の意義の再考</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の定義、分類及び編成の方法などについて理解し、説明することができる。 ・学習指導要領の改訂・経緯から、歴史的な変遷と学力観の変遷について理解し、説明することができる。 ・主体的・対話的で深い学びにおける授業改善やカリキュラム・マネジメントの必要性について理解し、実際の授業や教育課程編成において具体的にどのように取り入れるか話し合い、学びを深めることができる。 ・学習指導要領総則を踏まえて各学校で編成されている教育課程の具体例について学び、協働して教育課程を編成しようとする態度を身に付けることができる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の講義で使用（配布）したレジュメを基に、講義内容について改めて振り返り、分かったこと、さらに調べたいこと、次時に質問をしたいことなどについて整理する。
評価方法	<p>課題レポート・課題シートの提出（60%）・授業への参加意欲（40%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>

テキスト	<p>使用しない。 講義時にレジュメを配布するので、講義時に書き込み等しながら、自分のノートを作成してほしい。 遠隔授業になった場合は、Google classroom で資料を配布し、レポート課題を提示する。</p>
参考書	<p>文部科学省 『中学校学習指導要領解説総則編』 東山書房 平成29年 木村 裕編 『教育課程論・教育評価論』 ミネルヴァ書房 2022年 尾崎博美編 『ワークで学ぶ教育課程論』 ナカニシヤ出版 2018年 その他、講義の中で適宜紹介する。</p>
備考	<p>栃木県公立小中学校教諭（12年間の行政経験・8年間の管理職としての実務経験）更には、大学・学会等での研究実践、文部科学省CSマイスターとしての経験をもとに、教職を目指す学生のサポートを行い、教職の在り方を一緒に考えていきたい。</p>

講義科目名称： 国語科教育法

授業コード： 213009

英文科目名称： Teaching Methods of Japanese Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
塚越義幸教授 大山尚教授 柏崎純一講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>国語科教育の目標と内容、国語科教育の構造、言語教材、学習指導案の作成等を学ぶとともに、中学校の国語教材で実際に授業を展開して、国語の授業のあるべき姿を知る。 中学校の学習指導要領についての理解を深め、それに基づき学習指導案を作るための実践力を育成する。 また実際の教材を読解しつつ、その教授法を学ぶ。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修(「Google Classroom」を利用)と②同時・双方向型学修(「Google Meet」を利用)とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 国語科教育法を学ぶにあたって、教育関係法規と学習指導要領、中学校学習指導要領(国語科)の基本方針</p> <p>2回目 中学校国語科教育の目標と内容、課題</p> <p>3回目 国語科教育の構造、国語科の指導過程、指導形態</p> <p>4回目 学習指導と評価、学習指導案の意義・ねらい</p> <p>5回目 学習指導案作成の手順、留意点</p> <p>6回目 学習指導案作成の実際</p> <p>7回目 ジャンル別教材研究1(徒然草)</p> <p>8回目 ジャンル別教材研究2(論語)</p> <p>9回目 ジャンル別教材研究3(童話①)</p> <p>10回目 ジャンル別教材研究4(童話②)</p> <p>11回目 授業研究1(模擬授業①「漢字の成り立ち」)(遠隔授業の場合は「発問、説明について」)</p> <p>12回目 授業研究2(模擬授業②「敬語」)(遠隔授業の場合は「板書、ノート指導について」)</p> <p>13回目 授業研究3(模擬授業③「活用のない自立語」)(遠隔授業の場合は「アクティブ・ラーニングについて」)</p> <p>14回目 授業研究4(模擬授業④「類義語・対義語・多義語・同音語」)(遠隔授業の場合は「国語科授業の実践記録に学ぶ」)</p> <p>15回目 授業研究のふりかえり、まとめ(国語科教師のあり方・生き方を考える)</p>
到達目標	<p>①国語科教育(中学校)の目標や内容、課題等について理解できる。</p> <p>②教材研究の意義と方法について理解し、具体的な作品研究を通して実践的な力を身につけることができる。</p> <p>③学習指導案の意義や作成の仕方を学び、実際に作成できるようにする。</p> <p>④実際の授業実施にあたっての留意点や課題をとらえることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>①テキスト『学習指導要領解説・国語編』をよく読んで理解を深める。</p> <p>②教材研究で扱う作品について、よく読み研究する。</p> <p>③学習指導案および授業研究で扱う作品について、よく読み研究する。</p>
評価方法	<p>学習指導案及び課題(60%)、教材研究レポート(30%)、授業への参加意欲(10%) 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説・国語編』(東洋館出版社、平成30年)／『伝え合う言葉 中学国語2』(教育出版、令和3年)／レジュメ配布</p>

参考書	田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』（教育出版、2009年）／辰野千壽編『学習指導用語事典』（教育出版、2010年）／その他、教材研究や学習指導案・授業研究で扱う作品に関するもの など
備考	1～6回＝柏崎純一教員が担当、7～8回＝塚越義幸教員が担当、9～10回＝大山尚教員が担当、11～15回＝柏崎純一教員が担当 諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 家庭科教育法

授業コード： 243013

英文科目名称： Teaching Methods of Home Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中学校技術・家庭科を中心に家庭科教育の目標、内容、方法、評価等について学習し、家庭科指導の力量を高める。授業内実習に加え、家庭科独自の教育方法である「ホームプロジェクト」を取り入れ、中間報告および最終報告を行う。また、模擬授業を通して、学習者にとって意義ある指導計画を作成できる能力を養う。学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス、家庭科とは何か</p> <p>2 回目 教育課程の変遷と家庭科の歩み</p> <p>3 回目 学習指導要領にみる中学校家庭科の教育内容の変遷</p> <p>4 回目 家庭科の教育方法と主体的な学び方</p> <p>5 回目 中学校家庭科の教育目標と内容、指導上の留意点</p> <p>6 回目 中学校家庭科と技術科、小学校・高等学校家庭科とのかかわり</p> <p>7 回目 家庭科の授業づくりとESD</p> <p>8 回目 家庭科におけるICTの活用</p> <p>9 回目 ホームプロジェクト中間発表会</p> <p>10 回目 年間指導計画の作成と評価</p> <p>11 回目 学習指導案の作成方法</p> <p>12 回目 模擬授業① 家族・家庭生活</p> <p>13 回目 模擬授業② 衣食住の生活</p> <p>14 回目 模擬授業③ 消費生活・環境</p> <p>15 回目 ホームプロジェクト最終報告、これからの家庭科教育</p>
到達目標	<p>中学校技術・家庭科を中心とした家庭科教育法の基礎的知識の理解を深めるとともに、家庭科指導の実践力を習得する。</p>
授業時間外の学習	<p>模擬授業を行うための教材研究および学習指導案の作成を進める。特に学習指導案に関しては、教育実習で授業を担当することができるレベルに達するまで、修正を重ね、複数領域について作成する。</p> <p>家庭科独自の教育方法の一つである「ホームプロジェクト」は、プロジェクト学習の一種であり、自らの家庭の生活課題を見つけ、それを改善するための行動計画を立て実行することに特徴がある。本科目の受講者は、家庭科指導者として各自が身につけたい課題（目標）を1つ設定し、4カ月間の行動計画を立て、授業時間外に実行することが求められる。授業期間中には、中間報告と最終報告の2回の報告会があり、その準備を進める必要がある。</p>
評価方法	<p>学習指導案（20%）模擬授業（30%）ホームプロジェクト（30%）期末レポート（20%）の結果をもとに評価する。</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『技術・家庭分分野 生活の土台 自立と共生』開隆堂 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—技術・家庭編』（開隆堂、2018）</p>
参考書	
備考	<p>授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。</p>

講義科目名称： 社会科教育法

授業コード： 212009

英文科目名称： Teaching Methods of Social Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>テキストの中学校学習指導要領解説社会編及び教科指導に関する資料等を基に、教科としての目標、内容構成、指導上の留意点、評価等について基本的事項を学修する。その上で、教科としての目標を達成するための授業づくり及び模擬授業に挑戦する。教科書、指導書、学習指導要領等を活用し、教材研究、指導案の作成、模擬授業の実践を行う。模擬授業後は、主体的対話的な深い学びの指導法等についてディスカッションを行い、よりよい社会科授業の在り方を探究し、効果的な社会科指導法を身に付ける。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③とB-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 社会科教育の歩み</p> <p>2回目 中学校社会科の目標</p> <p>3回目 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の目標</p> <p>4回目 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の内容</p> <p>5回目 教材研究と単元のデザイン</p> <p>6回目 1単位時間の授業づくり</p> <p>7回目 示範授業の観察（ビデオ視聴）と指導法の分析</p> <p>8回目 指導法の工夫①（導入段階）</p> <p>9回目 指導法の工夫（追究段階）</p> <p>10回目 指導法の工夫（まとめの段階）</p> <p>11回目 指導案の作成方法と留意点</p> <p>12回目 模擬授業と振り返り①</p> <p>13回目 模擬授業と振り返り②</p> <p>14回目 模擬授業と振り返り③</p> <p>15回目 まとめ 一よりよい授業づくりためのポイントと今後の課題一</p>
到達目標	<p>中学校社会科の目標や地理・歴史・公民の各分野の社会的事象の見方・考え方、指導法、評価方法等についての基本的事項を理解することができる。単元目標及び本時の授業のねらいを達成するための指導案を作成し、模擬授業を通して教科指導の技術を高めることができる。実践授業の振り返りを通して、教材研究の意義や主体的対話的な深い学びの指導法についての知識や技能を身に付けることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>模擬授業を行う場合の教材研究及び指導案作成は、授業時間外に計画的に行う。その際、模擬授業に使用する資料やワークシート、さらには板書計画についてもその効果を吟味しながら念入りに準備をする。</p> <p>また、授業後は、講義内での振り返りをもとに、再度、本時の目標や学習活動、指導上の留意事項等について修正し、よりよい授業にするための改善案を作成する。なお、秋sem期間中に、自らの興味・関心の下、社会科指導法等に関する書物を1冊以上読む。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）、模擬授業及びレポート（70%）。遠隔授業になった場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』文部科学省。その他に必要な資料等は、その都度印刷し配布する。</p>
参考書	<p>社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』（学術図書出版社、2020）</p> <p>澤井陽介・加藤寿朗編著『見方・考え方 社会科編』（東洋館出版社、2017）</p>

講義科目名称： 道徳教育の理論及び指導法

授業コード： 121004

英文科目名称： Theory and Teaching Methods of Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春・秋 Semester	2 年次	2 単位	必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>人格の完成を目指すという教育の目的を達成する上で、豊かな人間性を育む道徳教育は学校教育の最も重要な柱の一つである。道徳教育は、学校のすべての教育活動に関わり、その要となるのが道徳科の授業である。本講義では、道徳教育の目的や意義、内容等の理論を学ぶとともに、道徳科の授業の指導法について、模擬授業を通して実践的に探究しながら、その技法を習得することを目的とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-②とA-③、B-①とB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる実施する。</p>
授業計画	<p>1 回目 本講義の進め方（オリエンテーション）と道徳教育の目的</p> <p>2 回目 道徳科の目標と内容</p> <p>3 回目 道徳教育の全体計画及び年間指導計画</p> <p>4 回目 道徳科の学習指導の在り方</p> <p>5 回目 道徳科の指導案の作成方法</p> <p>6 回目 道徳科の指導法①（道徳科の特質を踏まえた学習）</p> <p>7 回目 道徳科の指導法②（問題解決的な学習などの多様な指導法）</p> <p>8 回目 道徳科の指導法③（道徳科の授業と他の教育活動との関連）</p> <p>9 回目 道徳性の発達</p> <p>10 回目 模擬授業の計画</p> <p>11 回目 模擬授業①（テーマ：教材の取扱いと導入の工夫）</p> <p>12 回目 模擬授業②（テーマ：資料分析と発問の工夫）</p> <p>13 回目 模擬授業③（テーマ：道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫）</p> <p>14 回目 模擬授業④（テーマ：道徳科の評価）</p> <p>15 回目 本講義の振り返りとまとめ</p>
到達目標	道徳教育の目的や意義、内容を理解することができる。道徳科授業の指導案の作成や模擬授業を通して、発問や板書等の基本的な指導法を身に付けることができる。グループワークを通して主体的かつ協働的に学び合い、よりよい道徳科の授業の在り方を探究し、実践的な力を身に付けることができる。
授業時間外の学習	シラバスに基づいて講義前に該当する学習指導要領の内容をよく読み込み内容を理解するとともに疑問点等を明確にしておく。模擬授業を行う際は教材分析、指導案作成、板書計画等の事前研究を主体的かつ計画的に行うとともに、授業後は自らの授業を省察し、改善案を作成するようにする。
評価方法	授業への参加意欲（30%）、模擬授業や課題提出等の平常点（70%）の結果を基に評価する。遠隔授業にした場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』文部科学省・教育出版
参考書	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（文部科学省・東山書房）、月刊『道徳教育』明治図書 ※その他、授業のなかで適宜紹介します。
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	2年次	2単位	必修
担当教員			
外池彩萌 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、教育方法学に基づいている。長谷川榮(2008:9)によると「教育方法学は教育の実践から出発し、研究成果を実践に還元する実践科学という性格をもつ」という。理論と実践の往還が肝となる教育方法学は、教育という営みを考察する手掛かりとなるが、その舞台が学校教育とは限らない。本講義では、今まで我々が様々な場面や人間関係において体験してきた「教え」や「学び」を教育方法学の理論を用いて考察し、理論により得られた知識や考えが、これからの実践を豊かに創造することをめざす。具体的には、授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。実際の実践例を取り上げながら、授業の設計や実施の方法について考える。また、授業分析、学力に関する理論および教育評価の方法についても取り上げる。なお、学習成果の指標は、A-②、③とB②、③である。 ※授業計画は、学生の状況に応じ適宜変更になる可能性があります。
授業計画	<p>1回目 本講義の概要、オリエンテーション</p> <p>2回目 教育方法学の理念—理論と実践の往還</p> <p>3回目 指導原理1—教育方法学における教育史</p> <p>4回目 指導原理2—経験主義と問題解決学習</p> <p>5回目 教えと学び—学校教育に潜むジェンダー問題</p> <p>6回目 学習意欲と動機付け—自ら学ぶ意欲と他律的な学習意欲</p> <p>7回目 教師のわざ—教室内で発揮異される教師の技術</p> <p>8回目 個に応じる指導と学習集団—協働的学習と「学級」という集団</p> <p>9回目 教材と教科書—授業実践の創造の基盤</p> <p>10回目 授業づくりの原理—指導技術と指導計画</p> <p>11回目 教育評価—教育評価の5W1H</p> <p>12回目 思考力とメディア・リテラシーの育成—汎用的な能力育成をめざす指導方法</p> <p>13回目 情報教育とICT—デジタル教材の利用</p> <p>14回目 内容構成の原理—学校や教師の裁量性</p> <p>15回目 本講義のまとめ</p>
到達目標	<p>本講義は、教育方法に関する基礎的な理論と方法を理解するをめざす。</p> <p>具体的な目標は、次の3点である。</p> <p>(1)教育方法学の基礎的な理論について、その概要を説明することができる</p> <p>(2)上記の理論について、多様な立場があることを知り、それらを理論的に読み解き、相対的に把握することができる</p> <p>(3)上記の諸理論の把握に基づいて、自身の受けてきた(あるいは行なってきた)教育経験を反省的に観察することができる</p>
授業時間外の学習	講義内容について、理解が不十分であると感じた点について、配布資料を基に振り替わりを行ってください。
評価方法	各回で提示する小課題(30%)、講義内演習の成果(40%)、学期末レポート(30%)により総合的に評価します。 ※授業への積極的な参加を期待しますが、「書かれたこと」や測定可能なことを評価対象とします。
テキスト	教科書は使用しません。講義において講義プリントを配布します。
参考書	本講義の内容構成は、次の図書をベースにしています。適宜参照してください。

	・樋口直宏『MINERVA はじめて学ぶ教職11 教育の方法と技術』ミネルヴァ書房、2019年
備考	本授業は対面形式で行います。諸般の事情により、遠隔授業となった場合は、同時・双方型学修〔Google Meetを利用〕となります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
鈴木廣志 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通して行われる重要な教育活動である。また、進路指導・キャリア教育は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本講義では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の原理や学校教育における日常的な実践・役割等を理解し、具体的な方策や進め方について考え、教師としての指導観や実践力を養う。また、自己指導能力の育成にかかわる生徒指導、進路指導・キャリア教育の具体的な内容について、学校の教育活動全体を通して考察を深める。さらに、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②と③である。 諸般の事情により遠隔授業になる場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）となる。</p>
授業計画	<p>1回目 生徒指導の基礎（生徒指導の定義、構造） 生徒指導の基礎（生徒指導の定義、構造）</p> <p>2回目 生徒指導の基礎（生徒指導の方法、基盤、取組み上の留意点） 生徒指導の基礎（生徒指導の方法、基盤、取組み上の留意点）</p> <p>3回目 生徒指導と教育課程（教科の指導と生徒指導、道徳教育における生徒指導、総合・特活における生徒指導）</p> <p>4回目 チーム学校による生徒指導体制（学校組織、生徒指導体制、教育相談体制、生徒指導と教育相談の一体的連携）</p> <p>5回目 チーム学校による生徒指導体制（危機管理体制、法制度の運用体制、学校・家庭・関係機関等との連携・協働）</p> <p>6回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（いじめ、暴力行為）</p> <p>7回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（少年非行、児童虐待）</p> <p>8回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（自殺、中途退学）</p> <p>9回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（不登校、インターネット・携帯電話に関わる問題）</p> <p>10回目 個別の課題に関する児童生徒への対応（性に関する課題、多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導）</p> <p>11回目 キャリア教育の意義と必要性</p> <p>12回目 キャリア教育と進路指導（小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育）</p> <p>13回目 小学校におけるキャリア教育の実践（校内組織、全体計画、年間指導計画、特別活動とキャリア教育）</p> <p>14回目 中学校におけるキャリア教育の実践（校内組織、全体計画、年間指導計画、職場体験とキャリア教育の評価）</p> <p>15回目 生徒指導・進路指導のまとめと振り返り</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程における生徒指導の位置づけを理解し、各教科等における生徒指導の意義や重要性が理解できる。 ・集団指導・個別指導の方法原理が理解でき、実践事例を通して具体的な取組みについて考えることができる。 ・生徒指導の組織的な取組の重要性について、事例を通して理解を深めることができる。 ・生徒指導に関する主な法令の内容を理解し、生徒指導上の課題への対応の仕方が理解できる。 ・教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけについて理解し、説明することができる。 ・キャリア教育の視点、指導の在り方が理解でき、具体的な取組みについて考えることができる。

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスで授業内容を確認し、テキストをよく読み、事前に予習するようにする。 ・事後の学習では、レジュメやワークシート等を見直し、学習の定着を図る。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成績は、筆記試験（50％）課題レポート（40％）、授業への参加意欲（10％）を踏まえ、総合的に評価する。 ・遠隔授業の場合は、課題レポート（70％）、授業への参加意欲（30％）とする。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『生徒指導・教育相談』望月由紀編（学事出版）2024年 ・文部科学省 デジタルテキスト『生徒指導提要改訂版』（令和4年12月）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説総則編』（東山書房・平成29年） ・文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター編『変わる！キャリア教育』（ミネルヴァ書房・平成28年） ・その他、随時紹介します。
備考	<p>栃木県公立小中学校教諭（12年間の行政経験・8年間の管理職としての実務経験）更には、大学・学会等での研究実践、文部科学省CSマイスターとしての経験をもとに、教職を目指す学生のサポートを行い、生徒指導と進路指導の在り方を一緒に考えていきたい。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
星 雄一郎 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>保育・教育現場において幼児・児童・生徒を理解し、諸問題に対応するための理論的、実践的知識を学ぶ。初めに、保育・教育現場における教育相談の有り様、家庭、地域、関係機関との連携について学ぶ。次に、代表的な心理臨床の理論・心理療法について学ぶ。各理論・療法とその的確な適用を学ぶことで実践力を高める。後半では、理論的、実践的知識に基づいて、不適応状態に陥った幼児・児童の再適応を助け、問題の予防を目的とした援助や自己実現を助ける開発的援助の方法について学習する。</p> <p>本講義の学習成果の指標はA-③及びB-②、③である。「教職課程コアカリキュラム」に即したものである。本講義は、対面授業を中心に実施する。また、学修内容に応じて、Google Classroom を活用し、反転学習などの多様な学修を実施する。</p> <p>また、遠隔講義が必要となる状況になった場合は、Google Meet などを用いた②同時・双方向型学修を中心に実施し、Google Classroom などを用いた①課題型学修・③オンデマンド型学修を組み合わせる。</p> <p>加えて、講義の一部では反転学習を行う場合がある。講義を受講する前にあらかじめオンデマンド課題等で学習を済ませて、講義時間中には議論や討議、発表などを行う学習方式である。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション 教育相談の意義と役割</p> <p>2回目 教師に求められるカウンセリングスキル カウンセリングマインドの理解と実践</p> <p>3回目 学校心理学の考え方および“チーム学校”におけるスクールカウンセラ・スクールソーシャルワーカーの役割</p> <p>4回目 “チーム学校”と連携 学校組織と関連機関および家庭との連携</p> <p>5回目 学級経営と教師のメンタルヘルス</p> <p>6回目 アセスメントと関わる技法Ⅰ 理論の理解</p> <p>7回目 アセスメントと関わる技法Ⅱ 教育実践への応用</p> <p>8回目 学校危機予防の考え方と予防の在り方</p> <p>9回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅰ 不登校</p> <p>10回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅱ 非行・虐待</p> <p>11回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅲ いじめ</p> <p>12回目 幼児・児童・生徒の学校適応の問題と対応Ⅳ 無気力</p> <p>13回目 事例とロールプレイで学ぶ教育相談と面接技法</p> <p>14回目 神経発達症群への対応 自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症</p> <p>15回目 求められる教育相談の在り方 教員として必要な教育相談の視点と活用のポイント</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校における教育相談の役割や体制について理解することができる。 2. 児童生徒の発達課題を正しく理解し、子どものニーズに沿った関わりについて考えることができる。 3. いじめや不登校、特別な支援を要する児童生徒に対する基礎的な知識を身に付けることができる。 4. 支援が必要な児童生徒にスクールカウンセリングの理論や視点を援用し、適切に対応していくための見通しを持つことができる。
授業時間外の学習	<p>講義時間外での学習を求める。事前・事後学修については Google Classroom にて指示する。その他にも各自積極的に学修内容を活用した観察などを行い、積極的に学びを深めること。</p> <p>【事前学修】 30 分程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google Classroom に事前課題が出題される場合がある。事前課題に取り組み、回答を行ってから講義へ参加してください。 2. 教科書の当該範囲や関連書籍を読み、内容理解を深めること。

	<p>【事後学修】 30 分程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Google Classroom に事後課題が出題される場合がある。事後課題に取り組み、講義で学んだこと、考えたことなどをふりかえってください。 2. 講義資料やノートを再確認し、内容理解を深めること。 <p>各課題は、Google Classroom に定められた期日までにオンライン提出を求める。</p>
評価方法	<p>【評価基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の基礎となる発達心理学、臨床心理学の知識を身につける。 2. 児童生徒、保護者などのニーズを把握し、教育相談の観点から分析できるようになる。 3. 児童生徒の問題を解決するための教育実践活動を具体的に立案、計画できる。 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前・事後学修への回答 30% 2. 講義への参画度 20% 3. レポート課題 50% <p>※オンラインや遠隔での講義となった場合にも基本的な評価観点は対面での講義と同様とする。</p> <p>上記の 3 点から評価する。成績評価の基準は國學院大學栃木短期大学の基準に準拠する。</p>
テキスト	<p>渡辺弥生・西山久子（編著）（2018）. 必携：生徒指導と教育相談（生徒理解，進路相談そして学校危機予防まで）北樹出版（2,310 円）</p> <p>ただし、講義の中でテキストを開き、読み合わせをするようなことはありません（限られた講義時間を有効に利用するため）。テキストは事前事後学修への回答のため、講義時間では呈示しきれない情報の補填のために用います。</p>
参考書	<p>講義内にて適宜紹介します。</p>
備考	<p>【指導方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的に講義形式です。レジュメとスライドの他に必要に応じて視聴覚資料を使用します。 2. 講義への参画度を高く評価します。講義にただ出席するだけでなく、講義内での積極的な発言、参加を高く評価します。 3. 質問は講義前後の時間、毎回の出席調査票によって受け付けます。質問への回答は講義内で行います。 4. 通常は講義形式で行うが、グループ討論やロールプレイなどの実習を行うので積極的に参加すること。

講義科目名称： 教職実践演習（国語）

授業コード： 214011

英文科目名称： Teaching Practice Seminar（Japanese）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
柏崎純一 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習の経験をもとに、グループ討論やロールプレイングを通して、教師としての使命感や教育的愛情について考えたり、模擬授業を通して、効果的な教科指導の方法を学び直したりする。また、教職履修カルテを作成することで、これまでの教職課程科目において修得した知識・技能が身についているかを確認し、不足している点を明らかにする。</p> <p>対面形式の授業を主としてグループ討論や模擬授業等も行ってもらう予定である。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>諸般の事情により遠隔授業になる場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）あるいは同時・双方型学修（Google Meetを利用）となる。</p>
授業計画	<p>1回目 教職実践演習の目的と内容（ガイダンス及び履修カルテの確認）</p> <p>2回目 教師の使命感、教育的愛情</p> <p>3回目 求められる教師像（教師に求められる資質能力）</p> <p>4回目 学びに向かう集団づくり</p> <p>5回目 国語科の授業設計・教育実習時の学習指導案の振り返り</p> <p>6回目 国語科模擬授業の分担と学習指導案の改善</p> <p>7回目 道徳・特別活動等の授業設計</p> <p>8回目 改善案に基づく道徳・特別活動等の模擬授業と評価</p> <p>9回目 生徒理解と生徒指導</p> <p>10回目 学級経営案の作成等</p> <p>11回目 模擬授業①「説明的文章（評論）」・懲戒と体罰</p> <p>12回目 模擬授業②「文学的文章（小説）」・学校安全と危機管理</p> <p>13回目 模擬授業③「古典（古文）」・令和の日本型学校教育</p> <p>14回目 模擬授業④「文学的文章（短歌）」・個別最適な学びと協働的な学び</p> <p>15回目 まとめ（履修カルテに基づく自己評価と今後の学習課題の把握）</p>
到達目標	<p>教師として求められている使命感や教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力等についての資質の向上、スキルの定着をはかるとともに、使命感を抱いて生涯にわたって学び続けることができる教師を目指す。</p>
授業時間外の学習	<p>教職履修カルテを作成する。</p> <p>教員免許状を取得することの意味を自覚し、人間として、社会人として、教育者としての資質・能力を高める。</p>
評価方法	<p>履修カルテ、模擬授業、課題に対する取り組み、発表内容、レポート等をもとに担当教員が評価点数を出す。</p> <p>遠隔授業の場合も同様である。</p>
テキスト	<p>国語の模擬授業実施時に、中学校国語教科書に所収される教材の指導資料（文学的文章・説明的文章・古典等）を配付する予定である。</p>
参考書	<p>必要に応じて、参考書・参考資料を紹介する。</p>

備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。
----	-------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
仲田郁子教授 村井佐代子教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>これまでの教職課程において習得した知識・技能について振り返り、教員としての課題を整理し、教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力について資質やスキルの向上をはかる。</p> <p>前半は、各自の教員としての資質や能力に関する課題を自己評価および相互評価を通して整理し、具体的な改善計画を立て実行する。後半は、各自の改善計画の進行状況についての報告を行うと共に、教科の専門性を高めるための学習（教材研究、模擬授業）を進行する。学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス（これまでの学修の振り返り・グループ討論）</p> <p>2回目 学校組織と教師の役割（事例研究・グループ討論）</p> <p>3回目 学校教育におけるICTの活用とメディアリテラシー（事例研究・グループ実習）</p> <p>4回目 生徒理解と学級経営（学級経営案の作成、グループ討論）</p> <p>5回目 教員としての資質・能力を向上させる行動計画の作成・発表</p> <p>6回目 家庭科教員としての専門性（中学校見学）</p> <p>7回目 教材研究（地域の暮らしと食生活）</p> <p>8回目 教材研究（地域の暮らしと衣生活）</p> <p>9回目 教材研究（循環型社会の実現に向けて）</p> <p>10回目 教員としての資質・能力を向上させる行動計画の進行状況（中間報告）</p> <p>11回目 授業設計と模擬授業①（研究題材の検討、指導案の作成）</p> <p>12回目 授業設計と模擬授業②（模擬授業）</p> <p>13回目 授業設計と模擬授業③（模擬授業の評価とグループ討論）</p> <p>14回目 保護者、地域との連携（事例研究、ロールプレイング）</p> <p>15回目 ふりかえりとまとめ、教員としての資質・能力を向上させる行動計画の成果報告（相互評価）</p>
到達目標	<p>自らの教員としての資質・能力を振り返り、不足部分を補うための行動計画を立て実行することができる。また、教育現場の見学や教育に関するグループ討論、教材研究等を通して、プロとしての教育観、教科指導の専門性を身につける。</p>
授業時間外の学習	「教員としての資質・能力を向上させる行動計画」を進行させ、教材研究や模擬授業の準備を行うこと。
評価方法	<p>授業への取り組み（20%）・発表内容（30%）、期末レポート（50%）により評価をおこなう。</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書	<p>文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—技術・家庭編』（開隆堂、2018）</p> <p>『中学校技術・家庭家庭分野』開隆堂、『新しい技術・家庭家庭分野』東京書籍、『技術・家庭家庭分野』教育図書</p> <p>『次世代教員養成のための教育実習—教師の初心をみがく理論と方法—』次世代教員養成研究会編・学文社</p>
備考	地域の教育現場の視察（中学校見学等）に加え、教材研究のためのフィールドワークを行う場合がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	教職必修
担当教員			
島田芳行准教授 黒川澄夫講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教職課程履修の総括として、教職履修カルテを作成し、教職を目指す上での自己の課題を明確にするとともに、その課題について主体的に調査・研究を行い、課題への理解を深めたり解決を図ったりすることを通して教師としての資質・能力を高める。また、グループワークやディスカッション等を通して、教師として重要な使命感や教育的愛情について考えを深めたり、効果的な教科指導や生徒指導、保健・安全指導への理解を深めたりしながら学校現場で役立つ知識と技能を身に付け、教師としての実践的指導力を高める。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-③とB-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 教職実践演習の目的と内容（履修カルテの確認と自己課題の明確化）（島田）</p> <p>2回目 教師の使命感、教育的愛情（島田）</p> <p>3回目 学校経営と組織力（島田）</p> <p>4回目 学びに向かう集団づくり（島田）</p> <p>5回目 学習活動・社会科の授業設計（黒川）</p> <p>6回目 社会科学習指導案の作成と評価（黒川）</p> <p>7回目 模擬授業（黒川）</p> <p>8回目 模擬授業の改善（黒川）</p> <p>9回目 特別の教科道徳・特別活動の授業設計（黒川）</p> <p>10回目 道徳科の模擬授業（黒川）</p> <p>11回目 学校安全と危機管理（島田）</p> <p>12回目 懲戒と体罰（島田）</p> <p>13回目 自己課題研究発表①（島田）</p> <p>14回目 自己課題研究発表②（島田）</p> <p>15回目 まとめ（履修カルテに基づく自己評価と今後の学習課題の把握）（島田）</p>
到達目標	<p>教職を目指す上での自己の課題を明確にし、その課題について主体的に調査・研究を行い、まとめたことを工夫して発表することができる。グループワークやディスカッションを通して、教師としての使命感や教育的愛情、効果的な教科指導や生徒指導、学校安全管理等についての理解を深め、よりよい教師になるための実践的指導力を高めることができる。教職の喜びや困難さを理解し、教職の道を目指して常に自己研鑽に努めようとする意欲と態度をもつことができる。</p>
授業時間外の学習	<p>教職課程履修の総括として、教職科目や教育実習等を振り返り、教職履修カルテを作成する。教師として必要な資質・能力を高めるため、興味・関心のある教育問題について多くの資料を収集・分析し追究を深めたり、社会科の指導案や改善案を繰り返し作成し模擬授業を行ったりする。また、教育活動に関わるボランティア活動や教科指導に関する研究会等に積極的に参加し学校教育に関する視野を広める。</p>
評価方法	<p>授業への参加態度（30%）、履修カルテ（30%）、レポート（40%）。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>授業時にプリントを配付する。</p>
参考書	<p>必要に応じて、参考書籍や参考資料等を紹介する。</p>

備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。
----	-------------------------

講義科目名称： 教育実習 I（事前事後指導 1 単位を含む）

授業コード： 221004

英文科目名称： Practice Teaching 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習は、教員としての服務規律や専念すべき様々な職務についての理解を深めた上で、自覚をもって主体的かつ積極的に取り組む必要がある。そのためには実習前の周到な準備と心構えが大切である。本授業では、まず教育実習の事前、事中、事後の取り組みの概要を理解する。その上で教育実習で直面するであろう授業の観察の仕方や教科指導、生徒指導、安全指導等について、学校現場の具体的事例を基にグループワーク等を行いながら教育実習に必要な基本的な知識と技能を身に付ける。</p> <p>また、中学校教育実習における直前の事前指導及び事後指導は、必要に応じて集中補講の期間やス花アワー（水曜日・4時限）等の正規の授業時間外にも行う。</p> <p>なお、学習成果の指標のA-③とB-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Meetを利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 教育実習の意義と目的</p> <p>2 回目 教育実習の事前・事中・事後の概要</p> <p>3 回目 教育実習生としての職務</p> <p>4 回目 守秘義務や情報管理</p> <p>5 回目 授業観察のポイント</p> <p>6 回目 授業観察の実際（授業動画を視聴してのグループワーク）</p> <p>7 回目 授業づくりのポイント</p> <p>8 回目 道徳教育（授業動画を視聴してのグループワーク）</p> <p>9 回目 特別活動（学校行事への関わり）</p> <p>10 回目 学校経営・学級経営</p> <p>11 回目 学校保健・学校安全</p> <p>12 回目 教育相談</p> <p>13 回目 特別支援教育</p> <p>14 回目 教育実習の課題と対策</p> <p>15 回目 まとめ 一充実した教育実習にするために</p>
到達目標	<p>教育実習の意義を理解し、教員としての服務や職務内容を理解することができる。授業観察や学習指導、生徒指導等についての基本的な知識と技能を身に付けることができる。積極的に指導教員と関わり楽しく充実した教育実習にしようとする意欲を高め、そのための準備をスタートさせることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>シラバスをもとにテキストを事前に読み込み概要を理解するとともに、講義終了後は再度テキストを復習したり、関係する書物を読んだりして学習内容への理解を深める。</p> <p>また、教育実習中は、教員と同様に礼儀や節度ある行動が求められることから、日頃より挨拶、丁寧な言葉遣い、服装等に気を付けて行動する。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲(30%)、レポート(70%)。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更なし。</p>
テキスト	<p>教科書は使用しない。授業時に適宜、資料を配付する。</p>
参考書	<p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』（国語または社会、特別の教科道徳）文部科学省 玉川大学教師教育リサーチセンター編『教育実習ガイド 小学校・中学校・高等学校版』（時事通信社、</p>

	2020) 1年次「教科教育法」の授業で使用したテキスト 次世代教員養成研究会編『次世代教員養成のための教育実習－教師の初心をみかく理論と方法－』（学文社、2014年）
備考	諸般の事情により授業計画を変更する場合がある。

講義科目名称： 教育実習 I（事前事後指導 1 単位を含む）

授業コード： 224007

英文科目名称： Practice Teaching 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	教職必修
担当教員			
仲田郁子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習に先立ち、その意義を理解し、実習生として必要な知識・技能を学ぶ。これまで教育を受ける立場で学校と関わってきた学生であるが、教育実習期間中は実習生とはいえ教員の立場に立つことになる。そのため学校という組織について理解し、適切に行動するための基礎的な知識が必要となる。授業に備えては指導案の作成、模擬授業などを通じて実践力を養う。また授業外の活動、児童・生徒との関わり方、実習中に遭遇する可能性のある様々な問題への対処などについても学ぶ。</p> <p>学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業となった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1 回目 教育実習の意義と心構え</p> <p>2 回目 学校組織と教員の職務・学校現場に関わる法律の基礎知識</p> <p>3 回目 実習の流れ・実習日誌など実習関係書類の書き方と留意点</p> <p>4 回目 生徒理解 その1：個人差・問題行動への対応</p> <p>5 回目 生徒理解 その2：発達障がい児への対応</p> <p>6 回目 授業外の活動 その1：生徒指導、帰りの会の進行など学級内での役割</p> <p>7 回目 授業外の活動 その2：行事、課外活動への参加など学級外での役割</p> <p>8 回目 授業へ向けて その1：教材研究</p> <p>9 回目 授業へ向けて その2：指導案作成</p> <p>10 回目 授業へ向けて その3：模擬授業</p> <p>11 回目 授業へ向けて その4：模擬授業の評価と指導案の修正</p> <p>12 回目 実習で役立つプレゼンテーション力：自己紹介を含む</p> <p>13 回目 実習で役立つコミュニケーション力：ロールプレイを含む</p> <p>14 回目 実習で役立つ問題対応力：ロールプレイを含む</p> <p>15 回目 補足とまとめ</p>
到達目標	<p>教育実習の意義を理解し、積極的、主体的に実習に取り組むことができる。実習中に必要とされる知識・技能について事前に学習・準備することにより、授業場面で、あるいは学級内外での活動場面で、また児童・生徒との関わりに際し、適切に行動することができる。また、実習期間中に課題・問題に遭遇した場合には積極的に取り組み、その過程で様々な工夫を凝らし、必要に応じて相談することができる。</p>
授業時間外の学習	自己紹介案・指導案作成・仮実習日誌の作成などの課題の準備をする。
評価方法	<p>小レポート：50%、授業中の発表・課題：40%、授業への参加意欲・態度：10%</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』玉川大学教師教育リサーチセンター編、時事通信社
参考書	授業の中で紹介する。
備考	授業の展開により、授業の内容・順番が一部変更される可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位	教職必修
担当教員			
島田芳行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>教育実習は、大学で学んだ知識・技術を実際の教育現場で活用し、検証する機会である。いわば教育課程全体のまとめの学修である。教育実習を通して、学習指導や児童生徒指導、教育相談、学校行事やその他の特別活動等の教育活動を体験し、教えることの難しさ、学ぶことの大切さ、やりがいを実感しながら、教師としての実践的能力を身に付ける。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-③とB-②である。</p> <p>予定された期日に教育実習ができない場合は、実施時期を変更する。</p>
授業計画	<p>1回目 教育実習の意義と実習生としての自覚</p> <p>2回目 実習校の学校経営と学級経営の理解</p> <p>3回目 観察実習と参加実習による職務理解</p> <p>4回目 専門教科や他教科の示範授業観察</p> <p>5回目 授業実習と授業の振り返り（専門教科）</p> <p>6回目 授業実習と授業の振り返り（道徳科）</p> <p>7回目 特別活動（学校行事や学級活動）の指導</p> <p>8回目 日常の生活指導（給食指導や清掃指導、部活指導等）</p> <p>9回目 生徒理解と生徒指導</p> <p>10回目 発達障害の理解と個に応じた指導</p> <p>11回目 研究授業の教材研究</p> <p>12回目 研究授業</p> <p>13回目 研究授業の研究会（反省会）</p> <p>14回目 教育実習の記録のまとめ</p> <p>15回目 教育実習の振り返りと実習校への礼状</p>
到達目標	<p>教師としての職務に積極的に関わり、学校組織や校務分掌の意義・役割を理解することができる。教材研究、学習指導案、研究授業等を通して効果的な学習指導の知識と技能を身に付けることができる。児童生徒との交流や言葉かけを通して、児童生徒への理解を深めたり関わったりすることができる。実習日誌を整理し、教育実習のまとめをすることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>学習指導や児童生徒指導等に関する書物を読んだり、教育に関するニュースや時事問題等への関心を高めたりして、教育実習の事前の準備を計画的かつきめ細かく行う。学習指導要領や教科書、指導書等を基に教材研究を行い、事前に予定される研究授業の指導案を作成しておく。事後には実習校に礼状を書く。</p>
評価方法	<p>研究授業の記録や授業観察記録、日誌等の実践記録や実習校での評価をもとに評価する。</p>
テキスト	<p>教科書は使用せず。必要に応じて資料を配付する。</p>
参考書	<p>教材研究に必要な図書（教科指導のための教科書、指導書、学習指導要領）</p>
備考	<p>健康管理に十分気を付けて教育実習に取り組む。</p>

講義科目名称： 介護論 〈中(国社家)小〉

授業コード： 145004

英文科目名称： Theory of Nursing Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
小野幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>障害者や高齢者等の介護等を行うものにとって最も重要なことは、まずは、その方たちを真に理解しようとする真摯な態度を有していることである。その態度を育成するために特別支援教育や社会福祉の諸制度や事例等を通して、多様なものの見方や考え方について学ぶ。その学びを踏まえ、有意義な「介護等体験」を実施できることを目指す。なお、学習成果指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学習（「Google Classroom」を利用）を行う。</p>
授業計画	<p>1回目 介護等体験の意義</p> <p>2回目 関係法令等の理解</p> <p>3回目 特別支援教育について</p> <p>4回目 特別支援学校の教育1 障害種別と指導体制</p> <p>5回目 特別支援学校の教育2 教育課程①</p> <p>6回目 特別支援学校の教育3 教育課程② 自立活動</p> <p>7回目 特別支援学校の教育4 個別の教育支援計画と個別の指導計画</p> <p>8回目 特別支援学校の教育5 子どもの理解</p> <p>9回目 社会福祉について</p> <p>10回目 児童福祉について</p> <p>11回目 障害者福祉について</p> <p>12回目 高齢者福祉について</p> <p>13回目 生活保護について</p> <p>14回目 当事者の思い ～自立とは何か～</p> <p>15回目 介護等体験での留意点</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験の意義及び特別支援教育や社会福祉の諸制度の概要について知ることができる。 ・介護等を行うものとして、他者理解とそれに基づいた支援ニーズの把握及び実践について理解を深めることができる。
授業時間外の学習	事前にテキストを精読し、不明な用語や語句は調べてノートにまとめておく。
評価方法	定期試験70%（定期試験中止の場合 レポート、小テスト 70%）遠隔授業でも同じ授業への参加への意欲 30%
テキスト	『よくわかる社会福祉施設』 全国社会福祉協議会 『新フィリア』 全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟・ジアース教育新社
参考書	授業時に適宜紹介する
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります

講義科目名称： 学校保健

授業コード： 133018

英文科目名称： School Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校保健は教育目標達成のための活動であり、そのためには健康課題解決に向けた学校保健活動を組織の中で、どのように進めるかを理解し、養護教諭としての役割についての理解を深める。</p> <p>また、チームとしての学校及びヘルスプロモーションの視点で取り組む学校保健を理解し、学校教育における保健教育、保健管理、保健組織活動についての具体的な内容、連携のあり方について理解と実践力を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 学校教育と学校保健</p> <p>3回目 人権と学校保健</p> <p>4回目 地域保健と学校保健</p> <p>5回目 チームとしての学校と学校保健</p> <p>6回目 学校保健経営</p> <p>7回目 ヘルスプロモーション 健康日本21(第二次) とチームとしての学校</p> <p>8回目 心身の発育発達</p> <p>9回目 健康教育</p> <p>10回目 健康観察 健康診断</p> <p>11回目 保健指導</p> <p>12回目 心身の健康・発達・行動上の課題を有する子どもへの支援</p> <p>13回目 感染予防</p> <p>14回目 学校安全と危機管理</p> <p>15回目 学校衛生管理 食育と学校給食</p>
到達目標	<p>学校保健を取り巻く環境や社会状況の変化の中で、ヘルスプロモーションの概念のもと、チームとしての学校を理解し、学校教育の中で、多様な健康課題解決に向けた学校保健を推進する養護教諭として、組織的にどのように進めていくかを理解し実践に繋げることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>テキストを熟読し、授業内容の復習をしっかりと行う。</p>
評価方法	<p>〔定期試験〕(60%) 〔平常点(小テスト等を含む)〕(40%)で評価する。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校保健』-チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション- 徳山美智子・竹鼻ゆかり他 編著・東山書房</p>
参考書	<p>『新訂版学校保健実務必携(第5次改訂版)』学校保健・安全研究会 編著 第一法規</p> <p>『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省</p> <p>『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省</p> <p>『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省</p>
備考	<p>適時資料(データ)を配付する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭は、学校看護婦から養護教諭へと時代背景が変化する中で職務内容も多岐にわたってきている。そのため、より専門性が求められてきていることを理解し、学校教育の中で養護教諭が果たす役割についての理解を深める。</p> <p>また、養護教諭制度の変遷から、健康教育の推進を担う教育職員としての役割について理解し、養護教諭の職務内容である、保健教育・保健管理についての活動内容を学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせて実施する。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 養護教諭制度の変遷</p> <p>3回目 法律における養護教諭</p> <p>4回目 養護教諭の免許制度</p> <p>5回目 教育行政と教育関係法令</p> <p>6回目 教育課程と学習指導要領</p> <p>7回目 子どもの健康課題とその対応</p> <p>8回目 養護教諭の職務</p> <p>9回目 学校における救急処置・学校保健関係職員の役割</p> <p>10回目 健康診断（1）・法的位置づけ・実施と事後措置</p> <p>11回目 健康診断（2）・健康診断票・職員健康診断</p> <p>12回目 健康観察について</p> <p>13回目 疾病管理（1）・感染症・慢性疾患</p> <p>14回目 疾病管理（2）・アレルギー性疾患とその対応</p> <p>15回目 学校環境衛生と養護教諭の役割</p>
到達目標	養護教諭の歴史的変遷を理解し、時代背景の変化から子供の健康課題と解決改善に向けて求められる養護教諭の役割や、教育専門職として養護教諭の職務内容とその役割について理解できる。
授業時間外の学習	養護教諭の職務内容等授業内容を十分把握し、テキストの要点を復習して、市内小・中学校参観等学外活動に生かすことができるようにする。
評価方法	「定期試験」（60%）「平常点（小テスト等を含）」（40%）で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『新訂版学校保健実務必携（第5次改訂版）』学校保健・安全実務研究会 編著・第一法規
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省
備考	適時資料（データ）を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭が子どもの健康課題解決に向けて、学校の中で果たす役割や心の健康問題への支援のあり方など、求められる新たな役割についての理解を深める。これらの学びを通して、各自が描く養護教諭像に向けての意識を更に深め、養護教諭としての資質を高める。</p> <p>子どもの健康課題解決に向けた組織的活動について、養護教諭の役割や健康相談においての支援のあり方について理解し、さらに学校保健安全法を踏まえた保健教育活動について学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 保健教育の目ざすもの（オリエンテーション）</p> <p>2回目 保健教育について</p> <p>3回目 教科保健（保健学習）</p> <p>4回目 保健指導</p> <p>5回目 健康相談について</p> <p>6回目 健康相談の進め方</p> <p>7回目 学校における精神保健と養護教諭の役割</p> <p>8回目 子どもの発育発達・心のケア</p> <p>9回目 学校における教育相談と養護教諭の役割</p> <p>10回目 学校経営と保健室経営</p> <p>11回目 保健室経営計画作成・評価</p> <p>12回目 保健組織活動</p> <p>13回目 安全管理と危機管理</p> <p>14回目 調査・研究・プレゼンテーションの進め方</p> <p>15回目 現職研修と教員免許更新制</p>
到達目標	学校における子どもの健康課題に向けて、学校の中で果たす役割や支援のあり方を理解し、健康相談等養護教諭が果たす新たな役割についても理解できる。また、法を踏まえ保健教育活動が実施されていることを理解することができる。
授業時間外の学習	前期で学んだ内容を踏まえ、養護教諭の職務内容が理解できるよう復習や予習を十分行い、幼稚園や学童保育参観、小中学校参観等学外活動に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」（100％）で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省 『新訂版学校保健実務必携（第5次改訂版）』学校保健・安全実務研究会 編著・第一法規
参考書	『学習指導要領小学校編』文部科学省 養護教諭が行う健康相談 大谷尚子 鈴木美智子 森田光子 編著 東山書房

備考	適時資料(データ)を配付する。
----	-----------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭の職務の特質と保健室の機能を活かした、健康相談の基礎・基本について学ぶ。また、子どもの心身の健康問題の早期発見や早期対応に課するための役割や、健康相談・保健指導・受診等の必要性の判断、関係機関等との連携等について学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施する。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・健康相談の基本的理解 健康相談の捉え方について学ぶ。</p> <p>2回目 健康相談の重要性と法的根拠 健康相談の重要性と法的位置付けについて理解する。</p> <p>3回目 学校における健康相談の基本的理解 健康相談の目的、対象者、プロセス等について学ぶ。</p> <p>4回目 学校における健康相談と保健指導の基本的理解 個別の心身の健康問題解決に向けた健康相談と保健指導の目的、対象者、プロセス等について学ぶ。</p> <p>5回目 発達段階の違いによる身体の問題の特徴の理解 学齢期、青年前期、青年後期の身体の問題の特徴について学ぶ。</p> <p>6回目 発達段階の違いによる心の問題の特徴の理解 学齢期、青年前期、青年後期の心の問題の特徴について学ぶ。</p> <p>7回目 健康相談の基本的なプロセスの理解 対象者、問題の背景を把握し、その支援方法等について学ぶ。</p> <p>8回目 健康相談における支援体制の理解 校内や地域の関係機関等との体制づくりについて学ぶ。</p> <p>9回目 健康相談における支援の進め方の理解 支援計画、支援検討会議等について学ぶ。</p> <p>10回目 健康相談における基本的な技術について 相談に当たっての基礎事項や留意事項を学ぶ。</p> <p>11回目 健康相談（不登校・保健室登校）の対応 保健室での健康相談について不登校等の事例で学ぶ。</p> <p>12回目 健康相談における個別の保健指導の進め方① 個別に行う健康相談の保健指導の進め方について学びます。</p> <p>13回目 健康相談における個別の保健指導の進め方② 個別に行う健康相談の保健指導の連携等について学ぶ。</p> <p>14回目 健康相談の実際① 健康相談の対象者の把握、支援方針等について事例を通して学び、理解を深める。</p> <p>15回目 健康相談の実際② 健康相談の保健指導の対象者の把握、指導方針等について事例を通して学び、理解を深める。</p>
到達目標	<p>健康相談の沿革や定義について説明できる。</p> <p>子どもの心身の健康問題の早期発見・早期対応のための養護教諭の役割について理解する。</p> <p>演習等で、養護教諭の職務の特質を活かした子どもへの支援を理解することができる。</p> <p>演習等で、保健室の機能を活かした子どもへの支援を理解することができる。</p> <p>支援のために連携する関係者・関係機関等について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	新聞などメディア情報から、児童生徒を取り巻く社会的な問題を把握し、その対応についての知識を得る。
評価方法	「平常点（小テスト等含む）」100%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践』三木とみ子・徳山美智子 編集・株式会社ぎょうせい
参考書	『教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引』文部科学省・日本学校保健会
備考	適時資料（データ）を配付する。

講義科目名称： 免疫学

授業コード： 124013

英文科目名称： Immunology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
小菅敏雄 講師			
添付ファイル			

授業の概要	免疫反応について理解し、免疫細胞が関与する疾患等について学ぶ。 生体防御反応である免疫反応について理解し免疫系が関与する疾患について理解する。 なお、学習成果の指標はB-②です。 本授業が遠隔授業になった場合には、同時・双方向型(Google Meet)で実施し、時間割通りの時間で行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 新型コロナについて、免疫とは</p> <p>2回目 免疫反応のしくみ</p> <p>3回目 免疫担当細胞の種類</p> <p>4回目 免疫担当細胞の役割</p> <p>5回目 体液性免疫</p> <p>6回目 細胞性免疫</p> <p>7回目 ワクチンと感染症 予防接種</p> <p>8回目 自己免疫疾患 AIDS等</p> <p>9回目 インフルエンザ</p> <p>10回目 結核とエイズ</p> <p>11回目 アレルギー疾患 アトピー性疾患</p> <p>12回目 がんの免疫 C型肝炎</p> <p>13回目 免疫グロブリン製剤とは</p> <p>14回目 免疫不全 免疫疾患の治療薬</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	免疫の基礎を学ぶことで、免疫が関係している様々な疾病についての理解を可能とすることができる。
授業時間外の学習	新聞・テレビ等のマスコミにて紹介される、免疫が関係しているさまざま疾病に対して興味を持つ様にする。 例えば、新型コロナ、予防接種、アトピー性皮膚炎、AIDS、がん など。
評価方法	平常点(まとめのテスト等)100%で評価する。遠隔授業になった場合には、レポート100%。
テキスト	矢田純一『免疫 からだを護る不思議なしくみ 第6版』 東京化学同人 2020年
参考書	講義の中で随時紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>看護の基礎となる概念や理論、看護教諭にとっての学校看護の在り方等を学習する。養護教諭の専門性から鑑みて、「学校看護」は養護教諭の専門的機能としての土台を形成するものと考えられるので、臨床の場での看護をそのまま実践するのではなく、学校という教育の場の背景や校種、職員体制、地域性などの特徴を踏まえ、対象とする児童生徒の発達課題、健康課題を配慮し、必要な学校看護の基礎と看護実践についての内容について学ぶなお、学習指標は指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。また、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・学校看護概説</p> <p>2回目 基礎看護論1（学校看護の機能と養護教諭）</p> <p>3回目 看護学総論2（疾病の経過・処置に伴う看護）</p> <p>4回目 看護学総論3（養護教諭の活動過程）</p> <p>5回目 保健室の環境調整</p> <p>6回目 子どもに良くみられる病気1（小児看護の基礎知識）</p> <p>7回目 子どもに良くみられる病気2（小児看護の健康障害1）</p> <p>8回目 学童期の健康障害</p> <p>9回目 心の傷へのケア1（小児虐待）</p> <p>10回目 心の傷へのケア2（子供の心の問題）</p> <p>11回目 学校における救急看護①（外傷）</p> <p>12回目 学校における救急看護②（熱中症他）</p> <p>13回目 ヘルスアセスメント</p> <p>14回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1 学校看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や心身の健康について理解することができる。</p> <p>2 看護をする者（養護教諭）として、看護の対象を理解し、課題への対応について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	科目「看護実習」の授業と関連させ、看護に関する基礎知識について、あわせて予習、復習をする。健康課題についての知識、理解を深めるため、新聞、雑誌、報道等にも関心を持ち、健康課題への質の向上を得ることに努める。
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子他・大修館書店</p>
参考書	<p>『看護が見える フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所・メディックメディア</p> <p>『養護教諭のフィジカルアセスメント』少年写真新聞社</p> <p>『養護教諭のための救急対応バイブル』一般財団法人スポーツアライアンス</p>

備考	適時資料(データ)を配付する。 実務教員：初等教育・中等教育学校養護教諭として40年間勤務。
----	---

講義科目名称： 看護学Ⅱ

授業コード： 211005

英文科目名称： Nursing Studies 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>救急処置概論・救急処置のすすめ方等について理解し、看護する対象者への救急看護の方法を考えていく。養護教諭として必要な基礎看護として、学校救急処置概論や救急処置のすすめ方、基礎看護技術等について学ぶ。</p> <p>児童・生徒に多い急性期症状や慢性疾患、感染症等に対する支援、援助活動についても理解を深める。なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「GoogleClassRoom」を利用）と②同時・双方向型（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。また、オンデマンドによる授業を2回程度実施する</p>
授業計画	<p>1回目 学校安全と危機管理</p> <p>2回目 養護教諭が行う処置の法的責任</p> <p>3回目 学校救急処置概論</p> <p>4回目 災害時における学校看護(災害)</p> <p>5回目 看護技術1（子どもに多い急性期症状 頭痛等の理解と支援）</p> <p>6回目 看護技術2（子どもに多い腹痛等症状の理解と支援）</p> <p>7回目 看護技術3（子どもに多い嘔気、嘔吐、下痢等症状の理解と支援）</p> <p>8回目 看護技術4（子どもに多い発熱、ショック、意識障害、失神等症状の理解と支援）</p> <p>9回目 看護技術5（子どもに多い発疹、アレルギー性皮膚炎、性感染症等の理解と支援）</p> <p>10回目 看護技術6（慢性期疾患・気管支喘息、心臓、腎臓、糖尿病の理解と支援）</p> <p>11回目 学校における感染症予防の基礎理解</p> <p>12回目 特別な支援を要する児童生徒の理解</p> <p>13回目 発達に課題を持つ児童生徒の理解と支援</p> <p>14回目 セクシュアリティに課題を持つ児童生徒の理解と支援</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1 看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や学校救急処置概論、救急処置技術等について理解することができる。</p> <p>2 看護の対象として、児童・生徒の発達課題や健康課題、部位別の多様な症状と疾患についての支援、援助について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>科目「看護実習」の授業と関連させ、看護の概念や健康の概念、看護の対象等について、あわせて予習、復習をする。</p> <p>新聞、報道等についても関心を持ち、健康課題への向上に努める。</p> <p>健康課題や疾病の支援についての知識、理解については、ノートにまとめ理解を深める。</p>
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店</p>
参考書	

備考	適時資料（データ）を配付する。 実務教員：初等教育・中等教育学校養護教諭として40年間勤務。
----	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>看護の対象は、病人ばかりでなく、健康な人がより健康を保持・増進するための援助活動も看護の領域である。学校現場では、健康な子どもばかりでなく心身の不調傾向の子どもも在籍している。養護教諭の学校看護は、いかにあるべきかを理解し、児童生徒に対するより良い看護のあり方を考えていく。看護学Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎的看護の知識をさらに深め、学校現場における養護教諭として必要な看護学の理解を深める。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。また、オンデマンドによる授業を2回程度実施する</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 学校における救急処置とヘルスアセスメント</p> <p>3回目 症状別救急処置1(内科)</p> <p>4回目 症状別救急処置2(外科)</p> <p>5回目 学校における感染予防・対策</p> <p>6回目 アレルギー疾患への対応</p> <p>7回目 歯科疾患と保健活動の実際</p> <p>8回目 耳鼻咽喉科疾患への対応</p> <p>9回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>10回目 皮膚科疾患への対応</p> <p>11回目 眼科疾患への対応</p> <p>12回目 生活習慣病とメタボリックシンドローム</p> <p>13回目 身障害のある子供の理解と看護</p> <p>14回目 思春期における性のあり方</p> <p>15回目 ヘルスプロモーション</p>
到達目標	<p>1 看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や心身の健康について理解することができる。</p> <p>2 健康に関する基礎知識を習得し、心身の健康について自覚的認識を深める。</p> <p>3 看護の対象を理解し、健康を維持・増進させるためのより良い看護について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	科目「看護実習」の授業と関連しているので、看護の基礎知識について予習や復習をする。看護の概念や健康の概念、健康課題については、知識、理解を深めるためには、ノートにまとめておく。
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子編著・大修館書店</p> <p>『学校看護』岡田加奈子編著・東山書房</p>
参考書	『「新しい学校生活」のための感染症対策ハンドブック』鎌塚優子・大沼久美子/学事出版
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校現場では、健康課題の多様化の解決に向けて、養護教諭の専門的な役割が期待されている。特に急性期および慢性期の症状やけが等に対する救急処置活動は重要な責務を担っている。そこで、養護教諭の看護能力は、いかにあるべきか、また、より良い看護の在り方を追求する。学校現場における養護教諭として、児童生徒の健康課題や発達課題についても理解を深める。また、生涯にわたっての健康保持増進、疾病の予防・健康の回復等についても理解を深め、より良い看護の在り方を追求をする。なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。また、オンデマンドによる授業を2回程度実施する</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・身体の清潔</p> <p>2回目 日常生活をささえる技術(排泄)</p> <p>3回目 日常生活をささえる技術(食生活)</p> <p>4回目 日常生活をささえる技術(睡眠・休養)</p> <p>5回目 日常生活をささえる技術(生活習慣・遊び・学習)</p> <p>6回目 日常生活をささえる技術まとめ</p> <p>7回目 慢性期症状の処置①</p> <p>8回目 慢性期症状の処置②</p> <p>9回目 急性期及び緊急全身症状の処置</p> <p>10回目 思春期看護1（思春期の健康にかかわる問題）</p> <p>11回目 思春期看護2（薬物依存）</p> <p>12回目 思春期看護3（心にかかえる問題）</p> <p>13回目 母性看護（妊娠、出産、人工妊娠中絶）</p> <p>14回目 成人・老人看護&公衆衛生看護</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1 健康に関する基礎知識を習得し、看護の概念や心身の健康について理解することができる。</p> <p>2 看護の対象を理解し、健康を維持増進させるためのより良い看護について自覚的認識を深める。</p> <p>3 生涯にわたる健康を指向し、そのために健康を保持増進する看護について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>科目「看護実習」の授業と関連しているので、看護に関する基礎知識や発達課題、健康課題、救急処置活動等についてあわせて予習、復習をする。健康を維持増進させ、生涯にわたる健康問題については、自己概念を高め、健康課題についてノートにまとめておく。</p>
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」80%、および「レポート」の提出や「授業への参加意欲」を20%の評価基準とする。</p> <p>遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>『学校看護』岡田加奈子・東山書房</p> <p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店</p>
参考書	<p>『「新しい学校生活」のための感染症対策ハンドブック』鎌塚優子・大沼久美子/学事出版</p>

備考	適時資料(データ)を配付する。
----	-----------------

講義科目名称： 看護実習 I

授業コード： 143015

英文科目名称： Practice in Nursing Studies 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	看護学で学んだ理論を実習に移していく中で、将来、養護教諭として学校管理下で求められる看護や救急処置に関する技術を身につける。そのため、授業者の解説や看護技術を確認後、看護の基礎であるバイタルサイン（体温、血圧、呼吸、脈拍測定）や包帯の巻き方（巻軸帯、三角巾、ネット包帯等）の演習を通し、児童生徒の心と体をケアし安全かつ的確な処置を習得する授業内容とする。 なお、学習成果の指標はB-②である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「GoogleClassRoom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 フィジカルアセスメントの技術1（バイタルサイン・意識障害・体温・脈拍）</p> <p>3回目 フィジカルアセスメントの技術2（バイタルサイン・呼吸・血圧）</p> <p>4回目 フィジカルアセスメントの実際（バイタルサイン総合）</p> <p>5回目 保健室に必要な医療器具・備品</p> <p>6回目 包帯とその使用法1巻軸帯（環行帯・螺旋帯・蛇行帯・接転帯）</p> <p>7回目 包帯とその使用法2巻軸帯（亀甲帯・麦穂帯・反復帯）</p> <p>8回目 包帯とその使用法3巻軸帯（まとめ）</p> <p>9回目 包帯とその使用法4三角巾（たたみ三角巾の作り方・結び方・ほどこき方・たたみ方）</p> <p>10回目 包帯とその使用法5三角巾（頭・額、耳、目）</p> <p>11回目 包帯とその使用法6三角巾（鎖骨・前腕・腕のつり方）</p> <p>12回目 包帯とその使用法7三角巾（膝・下肢・足首）</p> <p>13回目 包帯とその使用法8三角巾（まとめ）</p> <p>14回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>15回目 ネット包帯</p>
到達目標	<p>1 看護学に関する基礎知識を理解し、実習で技術の習得ができる。</p> <p>2 看護の基礎の看護技術を実習を通して習得することができる。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業では、実習内容について、教科書や参考書、資料等から授業内容をまとめ、毎回、実習報告書を作成して提出をする。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」および、「授業への参加意欲」、「実習報告書」を70%とし、また、実技試験30%を評価基準とする。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『学校看護』岡田加奈子・東山書房 『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店
参考書	『救急法講習』日本赤十字社 『看護がみえる フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所・メディックメディア
備考	適時資料（データ）を配付する。 必要に応じて、救急救命法（心肺蘇生法・AED等）は、栃木市消防署の隊員による講習会を行う

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>看護学で学んだ理論を実習に移していく中で、将来、養護教諭として学校管理下で求められる看護や救急処置に関する技術を身につける。そのため、授業者の解説や看護技術を確認後、看護の基礎であるバイタルサイン（体温、血圧、呼吸、脈拍測定）や包帯の巻き方（巻軸帯、三角巾、ネット包帯等）の演習を通し、児童生徒の心と体をケアし安全かつ的確な処置を習得する授業内容とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「GoogleClassRoom」を利用）と②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション(包帯・三角巾復習)</p> <p>2回目 副子とその使用法1（指・前腕・肘）</p> <p>3回目 副子とその使用法2（上腕・鎖骨）</p> <p>4回目 副子とその使用法3（大腿骨・下腿）</p> <p>5回目 副子とその使用法4（膝・足首）</p> <p>6回目 副子とその使用法5（模擬救護）</p> <p>7回目 止血法</p> <p>8回目 体位保持法1（安楽な体位・タッチング）</p> <p>9回目 感染症対策(嘔吐物処理)</p> <p>10回目 救急救命法1（問診・バイタルサイン）</p> <p>11回目 救急救命法2（内科的）</p> <p>12回目 救急救命法3（外科的）</p> <p>13回目 模擬救護1</p> <p>14回目 模擬救護2</p> <p>15回目 健康診断検査器具の扱い方</p>
到達目標	<p>1 看護学で学んだ基礎知識を理解し、実習で、基礎看護技術が習得できる。</p> <p>2 看護の基礎の看護技術を習得し、対応できる実践力を身につけることができる。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業内容をまとめ、実習報告書を毎回、作成して提出をする。
評価方法	<p>「平常点（小テスト等を含む）」70%、「授業への参加意欲」や「実習報告書」また「実技試験」を30%とする。</p> <p>遠隔授業を実施した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	『学校看護』岡田加奈子・東山書房 『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店
参考書	『救急法基礎講習』日本赤十字社
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭に必要な学校における児童生徒の救急処置および基礎看護技術について実習する。実習においては、すべて養護教諭役・傷病者役になり、看護を受ける・看護をする等それぞれの立場からの体験を行い、看護の在り方を考えながら看護技術を習得する。また、養護教諭として必要な看護の知識を身につけ、運搬、電法、感染予防、援助技術、傷病者の対応等を中心に、その目的・方法について説明でき、安全かつ的確な処置ができることを目的とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・保健室の環境整備・薬品の扱い方</p> <p>2回目 疾病別処置・看護法1(頭痛・腹痛・気分不快等)</p> <p>3回目 外傷性疾病別処置・看護法1(創傷・切傷・熱傷・眼の異物等)</p> <p>4回目 外傷性疾病別処置・看護法2(骨折・捻挫)</p> <p>5回目 運搬・移動の援助技術1(毛布・担架)</p> <p>6回目 運搬・移動の援助技術2(1人・2人で運ぶ)</p> <p>7回目 感染予防対策(嘔吐物処理)</p> <p>8回目 感染予防対策(手の洗い方)</p> <p>9回目 安楽の援助</p> <p>10回目 電法の実際(冷電法・温電法)</p> <p>11回目 模擬救護1(学校における内科的処置)</p> <p>12回目 模擬救護2(学校における外科的処置)</p> <p>13回目 模擬救護3(学校における処置総合)</p> <p>14回目 心肺蘇生法・AED</p> <p>15回目 模擬救護4(まとめ)</p>
到達目標	<p>1 基礎看護学(1年次)に関する基礎知識をより理解し、実習で、看護技術の習得をする。</p> <p>2 看護の基礎である救急処置について処置の方法を身につけることができる。</p> <p>3 養護教諭として必要な運搬、電法、感染予防、援助技術、傷病者の対応等について看護技術を習得する。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業内容をまとめ、実習報告書を作成し提出をする。
評価方法	「平常点(小テスト等を含む)」を70%、「授業への参加意欲」や「実習報告書」を30%とする。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『学校看護』岡田加奈子・東山書房 『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店
参考書	『看護技術がみえる2』医療情報科学研究所・メディックメディア 『救急法講習』日本赤十字社
備考	適時資料(データ)を配付する。 必要に応じて、救急救命法(心肺蘇生法・AED等)は、栃木市消防署の隊員による講習会を行う

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭に必要な学校における児童生徒の救急処置および基礎看護技術について実習する。実習においては、すべて養護教諭役・傷病者役になり、看護を受ける・看護をする等それぞれの立場からの体験を行い、看護の在り方を考えながら看護技術を習得する。また、養護教諭として必要な看護の知識を身につけ、清潔に関する援助や学校における救急処置等を中心に、その目的・方法について説明でき、安全かつ的確な処置ができることを目的とする。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション(包帯・三角巾復習)</p> <p>2回目 清潔に関する援助1（口腔の清潔の援助）</p> <p>3回目 清潔に関する援助2（洗髪・足浴・手浴法）</p> <p>4回目 衣生活の援助技術（病衣交換法）・排泄の援助技術</p> <p>5回目 疾病別処置・看護法1（発作）</p> <p>6回目 疾病別処置・看護法2（気分不快・嘔吐）</p> <p>7回目 疾病別処置・看護法3（頭痛、腹痛）</p> <p>8回目 疾病別処置・看護法4（眼疾患・耳鼻疾患）</p> <p>9回目 外傷性疾病別処置・看護法1（創傷、切傷、熱傷、眼の異物等）</p> <p>10回目 外傷性疾患別処置・看護法2（上肢の包帯・三角巾・副子固定）</p> <p>11回目 外傷性疾患別処置・看護法3（下肢の包帯・三角巾・副子固定）</p> <p>12回目 総合実技（まとめ）</p> <p>13回目 模擬救護1(学校管理下の傷病)</p> <p>14回目 模擬救護2(災害・トリアージ)</p> <p>15回目 模擬救護3(総合)</p>
到達目標	<p>1 看護に関する基礎知識を習得し、看護の概念や看護の対象をより理解し、心身の健康について自覚的認識を深めより良い看護技術を習得することができる。</p> <p>2 養護教諭として学校における救急処置の技術を理解することができる。</p> <p>3 養護教諭として学校における救急処置活動や看護技術等の実践能力を身につけることができる。</p>
授業時間外の学習	『看護実習』の授業では、実習内容について、教科書や参考書、資料等から授業内容をまとめ実習報告書をまとめ提出する
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」70%、および「授業への参加意欲」や「実習報告書」を30%とする。遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『養護教諭のための看護学』藤井寿美子・大修館書店 『学校看護』岡田加奈子他・東山書房
参考書	『看護技術がみえる1』医療情報科学研究所・メディックメディア 『救急法講習』日本赤十字社
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 病院実習

授業コード： 700007

英文科目名称： Clinical Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
永瀬由美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭の職務のなかでも、傷病者への対応は、その専門性を生かす重要な分野である。病院実習は、今までに学習した医学・看護学等の知識及び技術を病院実習により直接観察または、体験することによって養護教諭の専門性の向上を図ることである。傷病者の心身の状態を理解し、保健医療チームを構成する各職種の機能を理解することにより、看護の果たす役割についての認識を深め、養護教諭としての力量を養い児童生徒の保健管理や健康教育に活用できる意義深い実習である。病院では、外来・病棟その他の施設における観察・参加・実習等を行う。また、地域の医院・その他の施設においては、外来を受診する患者、病棟における入院患者に対しての医師の診療の観察や看護を観察、一部実習を行う。また、家族を含めた看護についても学ぶ。</p>
授業計画	<p>1回目 診療準備の観察及び介助</p> <p>2回目 医師の患者に対する問診及び診断及び実習</p> <p>3回目 診察時の看護師による介助の観察及び実習</p> <p>4回目 外来各科の特色と役割、患者の症状及びその治療法の観察</p> <p>5回目 病棟での看護活動の理解と患者の症状及びその治療法の観察</p> <p>6回目 諸検査の種類とその方法の見学及び介助</p> <p>7回目 患者・家族とのコミュニケーションの持ち方の観察及び実習</p> <p>8回目 患者や家族のニーズ把握法の観察及び実習</p> <p>9回目 患者や家族への保健指導法の観察及び実習</p> <p>10回目 基礎看護技術（バイタルサイン）の観察及び実習</p> <p>11回目 基礎看護技術（環境整備の方法・ベッドメイキング）の観察および実習</p> <p>12回目 調理室の見学</p> <p>13回目 中央衛生材料室・手術室の見学</p> <p>14回目 薬剤室・臨床検査室・放射線科・物理療法室の見学</p> <p>15回目 分娩室の見学</p>
到達目標	<p>1 実習により、養護教諭の専門性を生かし病院（医院）の機構運営、各職種の機能を理解することができる。</p> <p>2 看護の果たす役割について認識を深めることができる。</p> <p>3 少しでも多くの傷病者およびその家族に接して、その傷病者の気持ちを知る。医師・看護師がどのように接しているのかを知る。</p> <p>4 病院実習は、実地の学習の場である。患者の生命に結びついていることを認識し、規律を守り実習生としてふさわしい言動、会釈、言葉遣い、態度等を取り感謝の心を持つことができる。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p>
授業時間外の学習	<p>実習後に、実習日誌に記録をする。（考察、および反省・感想等を記入する。）指導者に毎回、実習日誌を提出する際には、感謝の心で日誌を提出する。</p>
評価方法	<p>「実習病院・医院における実習への参加意欲等の評価」（60%）、「実習日誌記録」（40%）</p>
テキスト	<p>『養護教諭のための看護学』藤井寿美子他・大修館書店</p>
参考書	<p>『看護が見える フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所・メディックメディア</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子教授 仲田郁子教授			
添付ファイル			

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭として教職に関する科目、養護に関する科目の基礎的・基本的知識、技能の習得をする。 ・教育現場における諸課題を認識し、課題解決のための実践方法・内容等について理解を深める。 ・自己の不足している知識・技能に気づき、自ら課題解決のための学びを深める。 ・教員としての使命感・責任感・社会性・指導力・リーダーシップ能力と教育現場における実践力について確認を行い、不足している知識・技能等を補う。 ・教職に関する科目と養護に関する科目の実践演習を実施する。実践に当たっては既得の学びが教育現場における諸問題とどのように関わり、課題解決に向けてどのように活用できるか、その方法・過程はどうあるべきか養護実習の振り返りも含め実施する。また、グループ討議、ロールプレイング、事例研究、模擬授業等、現地実習、一般教科担当教諭をまじえた授業を行う。 <p>なお、学習成果の指標はB-②と③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施する。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス・履修カルテについて</p> <p>2回目 学校組織と教師の役割（グループ討論）</p> <p>3回目 学校教育におけるITC活用とメディアリテラシー（事例研究）</p> <p>4回目 保健指導（グループ討論）</p> <p>5回目 学習指導（教科保健計画・作成）</p> <p>6回目 特別活動（保健指導計画・作成）</p> <p>7回目 模擬授業</p> <p>8回目 模擬授業（評価・討論）</p> <p>9回目 学校保健安全計画と養護教諭の職務（討論）</p> <p>10回目 保健室経営案（作成・討論）</p> <p>11回目 現代の健康課題と養護教諭の職務（討論・ロールプレイング）</p> <p>12回目 保健・安全指導、食の指導（討論）</p> <p>13回目 実習校における学校教育目標、保健室経営の目標（討論）</p> <p>14回目 保護者、地域との連携（事例研究、ロールプレイング）</p> <p>15回目 自己評価・発表</p>
到達目標	教職に関する科目と養護に関する科目の基礎的・基本的知識や技能の習得内容を理解し、様々な実践演習を実施することにより、教育現場における諸問題への関わり方を身につけることができる。
授業時間外の学習	演習・討論の中で求められた課題内容についてまとめ提出する。
評価方法	「平常点(小テスト等含む)」(100%)で評価する。 遠隔授業を実施する場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』（1年次に使用したテキスト） 『学校保健』（2年次春semesterで使用したテキスト）
参考書	『新訂版学校保健実務必携（第5次改訂版）』学校保健・安全実務研究会 編著 法規法規 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省

	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 養護実習 I（事前事後指導 1 単位を含む）

授業コード： 224009

英文科目名称： Practice in School Nursing 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	養護必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護実習の意義や目的、内容についての理解と具体的な演習を通し、養護実習が円滑に効果的に行えるようにする。また、養護実習に臨む態度や心構えについても良く理解し、養護実習に備える。</p> <p>養護実習に向けて、実習の目的や養護教諭の職務について理解を深めます。また、養護実習中における実習内容について想定させるため、実習内容について具体的な演習を取り入れながら学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション</p> <p>2 回目 教育実習の意義と目標</p> <p>3 回目 教育実習の内容</p> <p>4 回目 教育職員としての心構え</p> <p>5 回目 養護実習生としての心構え</p> <p>6 回目 保健便りの作成（毎月提出）</p> <p>7 回目 教育実習における観察、参加について</p> <p>8 回目 環境衛生活動演習（温度・湿度・水質）</p> <p>9 回目 環境衛生活動演習（照度・騒音）</p> <p>1 0 回目 健康診断演習（計測・視力・聴力）</p> <p>1 1 回目 健康診断実習（健康診断結果処理）</p> <p>1 2 回目 保健室経営の目標と計画</p> <p>1 3 回目 保健室における日常活動（健康相談・保健指導）</p> <p>1 4 回目 保健室における日常活動（環境衛生活動）</p> <p>1 5 回目 教育実習の記録</p>
到達目標	養護実習の意義や目的、実習に臨む態度や心構えを理解し、演習することでより深まり、円滑かつ有意義な養護実習に備えることができる。
授業時間外の学習	養護実習に備え、目的や内容等総括的に理解を深めて、確認の意味からも復習予習を十分に行う。
評価方法	「平常点（小テスト等を含む）」(100%)で評価する。 遠隔授業を実施する場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	『養護実習ハンドブック』大谷尚子・中桐佐智子編著・東山書房 養護教諭のための教育実習マニュアル 尾花恵美子 栗田舞美 西川路由紀子 共著
参考書	『新訂版学校保健実務必携（第5次改訂版）』学校保健・安全実務研究会編著 第一法規
備考	適時資料(データ)を配付する。

講義科目名称： 養護実習Ⅱ(現場実習)

授業コード： 700008

英文科目名称： Practice in School Nursing 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	3単位	教職必修
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	これまで学んできた専門的な知識や技能、教職に関する理論や技術を実習校で体験的・総合的に検証することで、教員になるための必要な心構えをつくり、養護教諭として必要な実践的指導力を養うことを目的とする。この実習は教育課程の総仕上げとして位置づけられるので、実習校の教員と本学の教員と連携しながら指導を行う。
授業計画	<p>事前指導（実習の心得・注意等）</p> <p>教育実習校での事前指導</p> <p>教育実習 指導講話・授業観察・授業実習・研究授業等</p> <p>（実習校への本学教員の訪問）</p> <p>事後指導</p>
到達目標	養護教諭として勤務するための資質と能力を獲得する。
授業時間外の学習	
評価方法	勤務状況・教育実習記録・実習校での教育実習評価を総合して評価する。
テキスト	
参考書	
備考	

講義科目名称： 介護論 〈幼保 養護〉

授業コード： 245006

英文科目名称： Theory of Nursing Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	教職必修
担当教員			
小野幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>障害者や高齢者等の介護等を行うものにとって最も重要なことは、まずは、その方たちを真に理解しようとする真摯な態度を有していることである。その態度を育成するために特別支援教育や社会福祉の諸制度や事例等を通して、多様なものの見方や考え方について学ぶ。その学びを踏まえ、個々の支援ニーズに基づき適切に介護等が実施できることを目指す。なお、学習成果指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学習（「Google Classroom」を利用）を行う。</p>
授業計画	<p>1回目 介護とは何か</p> <p>2回目 関係法令等の理解</p> <p>3回目 特別支援教育について1 制度の概要</p> <p>4回目 特別支援教育について2 学びの場</p> <p>5回目 特別支援教育について3 知的障害児の教育課程</p> <p>6回目 特別支援教育について4 自立活動の指導</p> <p>7回目 特別支援教育について5 個別の教育支援計画と個別の指導計画</p> <p>8回目 特別支援教育について6 子どもの自信を高めるために</p> <p>9回目 社会福祉について</p> <p>10回目 児童福祉について</p> <p>11回目 障害者福祉について</p> <p>12回目 高齢者福祉について</p> <p>13回目 生活保護について</p> <p>14回目 当事者の思い ～自立とは何か～</p> <p>15回目 介護や支援を行うに当たっての留意点</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育や社会福祉の諸制度の概要等について知ることができる。 ・介護等を行うものとして、他者理解とそれに基づいた支援ニーズの把握及び実践について理解を深めることができる。
授業時間外の学習	事前にテキストを精読し、不明な用語や語句は調べてノートにまとめておく。
評価方法	定期試験 70%（定期定期中止の場合レポート・小テスト 70%、） 遠隔授業でも同じ授業への参加意欲 30%
テキスト	『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 『新フィリア』全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟編・ジアース教育新社
参考書	授業時に適宜紹介する
備考	諸般の事情により、授業計画を変更する場合があります

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	養護必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>子どもの持つ悩みや問題解決に向けた援助を行うためには、カウンセリングの基礎を理解し、それに基づく具体的な援助について学ぶことが必要である。</p> <p>養護教諭の行う健康相談は、学校カウンセリングの領域の中で主に適応相談の領域が中心となっている。そこで、学校カウンセリングについての理解を深め、子どもが学校生活に適応し、自立に向けた人格の成長が図れるよう養護教諭としての援助の在り方について、講義、演習を通して学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「GoogleMeet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 カウンセリングとは</p> <p>2回目 傾聴と共感的理解</p> <p>3回目 カウンセリングの技法①</p> <p>4回目 カウンセリングの技法②</p> <p>5回目 交流分析 演習1 相補交流と交差交流</p> <p>6回目 交流分析 演習2 対話分析</p> <p>7回目 ロールプレイング演習①</p> <p>8回目 ロールプレイング演習②</p> <p>9回目 短期療法 理論と実際</p> <p>10回目 短期療法 事例の見立てと介入</p> <p>11回目 ロールプレイング演習③</p> <p>12回目 認知行動療法</p> <p>13回目 心理検査から分かること</p> <p>14回目 ロールプレイング演習④</p> <p>15回目 ストレスのメカニズム・リラクゼーションの方法</p>
到達目標	<p>児童生徒の発達段階における心理を理解しカウンセリングに活用できる。</p> <p>心理検査の演習を通して、教育現場で活用される主な心理検査について理解することができる。</p> <p>保健室来室場面等のロールプレイなどを行い、児童生徒をより深く理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業で使用する資料は事前に配布するので、各自内容をよく読み、演習のポイントを理解してから授業に臨む。</p> <p>教師が行うカウンセリングを通して現在の学校教育の課題について学び、自分なりの意見が述べられるようにする。</p>
評価方法	<p>課題提出（60%）、授業への参加意欲・態度（20%）、演習試験（20%）等総合的に評価する。</p> <p>遠隔授業に変更した場合も「GoogleMeet」にて演習を行うので、評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>教科書は使用せず。適宜資料を配付する。</p>
参考書	
備考	<p>実務教員：初等教育学校教諭として30年間勤務、教科指導・教育相談を務める。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	養護選択
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭は、学校看護婦から養護教諭へと時代の求めにより職務内容も多岐にわたってきている。そのため、より専門性が求められてきていることを理解し、学校教育の中で養護教諭が果たす役割についての理解を深める。</p> <p>また、養護教諭制度の変遷から、健康教育の推進を担う教育職員としての役割について理解し、養護教諭の職務内容である、保健教育・保健管理についての活動内容を学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施する。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 養護教諭制度の変遷</p> <p>3回目 法律における養護教諭</p> <p>4回目 養護教諭の免許制度</p> <p>5回目 教育行政と教育関係法令</p> <p>6回目 教育課程と学習指導要領</p> <p>7回目 子どもの健康課題とその対応</p> <p>8回目 養護教諭の職務</p> <p>9回目 学校における救急処置・学校保健関係職員の役割</p> <p>10回目 健康診断（1）・法的位置づけ・実施と事後措置</p> <p>11回目 健康診断（2）・健康診断票・職員健康診断</p> <p>12回目 健康観察について</p> <p>13回目 疾病管理（1）・感染症・慢性疾患</p> <p>14回目 疾病管理（2）・アレルギー性疾患とその対応</p> <p>15回目 学校環境衛生と養護教諭の役割</p>
到達目標	養護教諭の歴史的変遷を理解し求められる養護教諭の役割と、教育専門職として養護教諭の職務内容とその役割について理解できる。
授業時間外の学習	養護教諭の職務内容等授業内容を十分把握し、テキストの要点を復習して、市内小・中学校参観時に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点(小テスト等も含む)」(100%)で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『新訂版学校保健実務必携(第5次改訂版)』学校保健・安全実務研編著編著・第一法規
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省
備考	適時資料(データ)を配付する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	養護選択
担当教員			
村井佐代子 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>養護教諭が子どもの健康課題解決に向けて、学校の中で果たす役割や心の健康問題への支援のあり方など、求められる新たな役割についての理解を深める。これらの学びを通して、各自が描く養護教諭像に向けての意識を更に深め、養護教諭としての資質を高める。</p> <p>子どもの健康課題解決に向けた組織的活動について、養護教諭の役割や健康相談においての支援のあり方について理解し、さらに学校保健安全法を踏まえた保健教育活動について学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はB-②である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせ実施する。なお、オンデマンドによる授業を2回程度実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 保健教育の目ざすもの（オリエンテーション）</p> <p>2回目 保健教育について</p> <p>3回目 教科保健（保健学習）</p> <p>4回目 保健指導</p> <p>5回目 健康相談について</p> <p>6回目 健康相談の進め方</p> <p>7回目 学校における精神保健と養護教諭の役割</p> <p>8回目 子どもの発育発達・心のケア</p> <p>9回目 学校における教育相談と養護教諭の役割</p> <p>10回目 学校経営と保健室経営</p> <p>11回目 保健室経営計画作成・評価</p> <p>12回目 保健組織活動</p> <p>13回目 安全管理と危機管理</p> <p>14回目 調査・研究・プレゼンテーションの進め方</p> <p>15回目 現職研修と教員免許更新制</p>
到達目標	学校における子どもの健康課題に向けて、学校の中で果たす役割や支援のあり方を理解し、健康相談等養護教諭が果たす新たな役割について理解できる。また、法を踏まえ保健教育活動が実施されていることを理解することができる。
授業時間外の学習	前期で学んだ内容を踏まえ、養護教諭の職務内容が理解できるよう復習や予習を十分行い、幼稚園や学童保育参観、高校参観に生かすことができるようにする。
評価方法	「平常点（小テスト等も含む）」（100％）で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『新養護概説』采女智津江・少年写真新聞社 『新訂版学校保健実務必携（第5次改訂版）』学校保健・安全実務研究会編著・第一法規
参考書	『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省

備考	適時資料（データ）を配付する。
----	-----------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
澤田 実 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館司書・博物館学芸員の資格取得の基礎となる科目です。「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」（教育基本法第3条 生涯学習の理念）とされるなか、人々にとって身近な学習施設である図書館・博物館等の役割は大きいものがあります。本講では、資格取得の前提として、生涯学習や社会教育の本質について理解をはかり、学習者の特性や教育相互の連携について学びます。生涯学習・社会教育の現状や課題を実態に即して考察するとともに、社会教育施設としての図書館・博物館の実際についても学ぶものです。</p> <p>学習成果の指標はA-③です。</p> <p>本授業は、遠隔授業になった場合には、①課題型学修（Google Classroomを利用）と③オンデマンド型学修（Google Classroomにパワーポイントの音声付講義の配信）とを組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 「生涯学習概論」を学ぶために</p> <p>2回目 「生涯学習の現代的意義」 1 生涯学習とは何か（教科書p2～14）</p> <p>3回目 「生涯学習の現代的意義」 2 生涯学習の理念（教科書p15～19、p27～30）</p> <p>4回目 「生涯学習振興施策の動向」 生涯学習支援の広がりの実例（教科書p20～27、p73～82）</p> <p>5回目 「社会教育の概念と意義」（教科書p36～41）</p> <p>6回目 「社会教育の特質」 1 社会教育の特質 2 社会教育の対象（教科書p42～46）</p> <p>7回目 「社会教育の特質」 3 社会教育の内容（教科書p46～48）</p> <p>8回目 「社会教育の特質」 4 社会教育の方法形態（教科書p49～51）</p> <p>9回目 「生涯学習と社会教育施設」 1 公民館の役割と機能（教科書p135～140）</p> <p>10回目 「生涯学習と社会教育施設」 2 図書館の役割と機能（教科書p141～147）</p> <p>11回目 「生涯学習と社会教育施設」 3 博物館の役割と機能（教科書p148～155）</p> <p>12回目 「生涯学習と社会教育施設」 4 図書館・博物館の実際と新しい動向（教科書p141～155）</p> <p>13回目 「社会教育に関する団体と指導者」（教科書教科書p117～122、p123～128）</p> <p>14回目 「生涯学習社会と家庭・学校・地域」 1 生涯学習社会と家庭教育 2 生涯学習社会と学校教育（教科書p162～179）</p> <p>15回目 「生涯学習社会と家庭・学校・地域」 2 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の役割（教科書p28～33、p180～188）</p>
到達目標	<p>生涯学習誕生の経緯や我が国における展開を知り、生涯学習の現代的意義や生涯学習振興施策の動向についての基礎基本について理解する。生涯学習の中核である社会教育について基本的事項を理解する。社会教育の対象の理解や社会教育の方法・形態を理解することで、社会教育関係職員としての学習支援能力の獲得につなげる。社会教育施設としての図書館、博物館の役割について知るとともに、現状や新しい動向について十分に理解し、今後の課題について社会教育関係職員をめざす者として課題意識をもって考察する。生涯学習社会における学校・家庭・地域の連携・協働の実際と社会教育施設が果たすべき役割について理解し、幅広い視野を身に付ける。講義全体を通して、社会教育関係職員に求められる「学習課題の把握と企画立案の能力」、「コミュニケーションの能力」、「組織化援助の能力」、「調整者としての能力」、「幅広い視野と探求心」を獲得する。</p>
授業時間外の学習	<p>教科書の該当部分を授業計画に記載してあるので、関係部分の予習を心掛けてください。Google Classroomで様々な参考資料を配布します。事前に配布したものについての予習も大切です。広く生涯学習や社会教育施設</p>

	等に関する報道（新聞、テレビ、インターネット等）に対する興味関心を持ち、必要に応じてメモを残したり、資料として保存したりする習慣を身につけると学習の定着に大きな力となります。このことは、実際に社会教育関係職員として勤務する時の資質向上にもつながります。 また、配布した資料をきちんと整理することが、学習の定着につながります。各回の授業の復習をきちんと行ってください。司書や学芸員にはプレゼンテーション能力が求められる時代です。常に講義内容をプレゼンできるように定着させるという気持ちをもって講義に臨んでください。
評価方法	授業の参加意欲（40%） 授業中の小テスト（30%） 課題レポートの回答内容（30%）
テキスト	執筆・編集代表 馬場 祐次朗 『二訂 生涯学習概論』 ぎょうせい 2018年
参考書	必要に応じ講義時に紹介します。 なお、科目全体を通して、皆さんの学びを深めるための参考Webページは以下のとおりです。 1 文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/ 2 // ページ中令和4年度 文部科学白書 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/1420041_00015.htm 3 // 白書中 第3章 生涯学習社会の実現 https://www.mext.go.jp/content/20230713-mxt_soseisk02-000030936_9.pdf また、各講義回ごとに必要な参考資料、Webページ等を提示します。
備考	授業計画については、履修している学生に対して事前に説明を行った上で変更することがあります。 授業の参加意欲は、各回の課題等の提出状況により判断します。

講義科目名称： 図書館概論

授業コード： 253013

英文科目名称： Introduction to Librarianship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館の機能、種類、経営等、様々な観点から図書館に関する枠組みを学び、図書館とは何かについて理解を深める。</p> <p>具体的には、図書館の意義と機能、図書館の種類、図書館に関する法制度や行政、図書館間の協力、出版・書店の現状、図書館を支える諸学問等について講義する。授業では、随時グループディスカッションやディベートを行うので、積極的に討議に参加すること。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：この授業の進め方や課題などの説明</p> <p>2回目 図書館の意義と機能</p> <p>3回目 図書館の種類</p> <p>4回目 知的自由と図書館（1）：ユネスコ公共図書館宣言</p> <p>5回目 知的自由と図書館（2）：図書館の自由に関する宣言</p> <p>6回目 図書館サービスの原則</p> <p>7回目 図書館サービスの種類</p> <p>8回目 図書館と情報資源</p> <p>9回目 図書館法制定以後の日本の図書館の動き</p> <p>10回目 図書館経営と図書館職員</p> <p>11回目 図書館の施設・設備</p> <p>12回目 日本における図書館の現状</p> <p>13回目 日本の出版（1）：統計から見た出版の現状</p> <p>14回目 日本の出版（2）：図書館との関係</p> <p>15回目 図書館の課題と展望</p>
到達目標	<p>図書館の基本的な意義と機能について理解できるとともに、図書館サービスや経営に関する各論の受講の前提となる基礎知識を得ることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業では事前に各自の考え方がまとめられていることを前提としてディスカッション等を行いつつ講義を進めるので、図書館に関連する事項（図書館、出版、IT技術、読書、活字文化、情報流通、メディア論等）について取り上げている新聞記事の内容の概略をまとめておくこと。具体的な事項（テーマ）については各回ごとに授業時に指示する。</p> <p>ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。またグループワーク等は、基本的に実施しない。</p>
評価方法	<p>ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。</p> <p>レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基礎知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p>
テキスト	<p>高山正也・岸田和明編集『改訂 図書館概論』（樹村房、2017）</p> <p>今まど子・小山憲司編著『図書館情報学基礎資料 第4版』（樹村房、2022）</p>
参考書	必要時に紹介。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代社会における図書館の役割を確認するとともに、行財政改革・規制緩和の進展といった急激かつダイナミックな社会の変化のもとでの図書館経営について、関連する法令や図書館政策の状況を解説する。また、各種の事例によってその実態と意義を検討する。特に行政経営という観点で図書館を見る、という考え方を体得してもらう。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1回目 ガイダンス：この授業の進め方や課題などの説明 2回目 図書館経営の概念 3回目 館種別法規系統と法体系の形式的効力 4回目 図書館法（逐条解説）（1）：図書館法の全体構成 5回目 図書館法（逐条解説）（2）：図書館法改正履歴と条文の変化 6回目 非営利組織の経営（1）：経営とは何か 7回目 非営利組織の経営（2）：非営利組織経営の特徴 8回目 図書館の組織と職員 9回目 経営サイクルと図書館活動 10回目 図書館の短期計画と中・長期計画 11回目 地方自治体の財政状況 12回目 図書館の経営評価 13回目 管理形態の多様化と制度の問題 14回目 民間委託・民営化問題とマネジメント 15回目 公共サービスと図書館のミッション
到達目標	現代社会における図書館経営について、特に行政経営という観点からの基礎知識の獲得及びその理解を深めることができる。
授業時間外の学習	授業では事前に各自の考え方がまとめられていることを前提にグループワークやディベート等も取り入れながら講義を進めるので、各回のテーマにしたがった新聞記事等の内容を出典とともに簡単にまとめ、各自の意見・感想も付しておくこと。取り上げるテーマは授業時に指示するが、行政経営という観点から地方自治体の組織や財政に関する問題を取り上げるので、図書館そのものに関する記事以外にも、地方自治体に関わる問題について、幅広く正確な情報を収集しておくこと。 ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。またグループワーク等は、基本的に実施しない。
評価方法	ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。 レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基礎知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	糸賀雅児・葉袋秀樹編集『図書館制度・経営論』（樹村房、2013） 今まど子・小山憲司編著『図書館情報学基礎資料 第4版』（樹村房、2022）
参考書	内野安彦著『図書館長論の試み ―実践からの序説―』（樹村房、2014）

	*その他、必要時に紹介。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>高度情報社会においては、市民の情報基盤として図書館の役割は大きい。司書として図書館が市民に提供できる情報基盤とは何か、業務としてどのようなものがあるのかについての現状を知り、必要な情報技術に関する基礎的な知識を身につける。また必要に応じて演習を行う。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 コンピュータとネットワークの基礎</p> <p>2回目 情報技術と社会、その課題 ライフスタイルとコミュニケーションの変化と情報、課題</p> <p>3回目 図書館と情報技術</p> <p>4回目 図書館業務システムとデータベース</p> <p>5回目 図書館と電子資料</p> <p>6回目 デジタルアーカイブを見てみよう 国立国会図書館などのデジタルアーカイブ活用を考える</p> <p>7回目 検索エンジンの仕組みと検索</p> <p>8回目 情報検索の理論と方法① 情報検索の仕組み</p> <p>9回目 情報検索の理論と方法② 情報検索の手法とプロセス</p> <p>10回目 コンピュータシステムの管理とセキュリティ</p> <p>11回目 ネットワーク情報資源を考える</p> <p>12回目 デジタルアーカイブの構築と運用</p> <p>13回目 デジタルアーカイブの活用と課題 デジタルアーカイブの活用促進を発表する。</p> <p>14回目 デジタル情報資源を作ってみる canvaでオリジナル情報資源を作ってみる</p> <p>15回目 デジタルデバイスに対して図書館ができること</p>
到達目標	<p>コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、コンピュータシステム、データベース、セキュリティ、検索エンジン、電子資料、等について理解し、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得することを目標とする。図書館を取り巻く情報環境の変化や、それにもなつて生じた課題を見ていく中で、各種情報メディアの電子化と各種業務システムの変化、情報機器の基本的な種類・仕組み・機能について理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>新聞やニュースで報道されるICT等の「最新技術」の動向を注視して問題意識を高めておくこと。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポートと確認テスト）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基本的な仕組み等の理解」のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。</p>
テキスト	<p>『図書館情報技術論』第3版、日高昌治著、学文社、2022 *その他、授業中に紹介する。</p>
参考書	<p>岡紀子・田中邦英『図書館と情報技術：情報検索能力の向上をもめざして』樹村房、2019</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
須永和之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館とは、利用者が希望する資料及び情報を提供していく社会的施設です。図書館で行われている活動の中でも、利用者と直接接して行われているサービスこそが、それぞれの図書館の果たすべき目的を知ってもらえる行為で、図書館活動の中心をなす業務です。この講義では公共図書館を中心として、行っている諸サービスの特質、方法、現状のサービスの抱える問題点などについて解説し、図書館のサービスについての知識を得るとともに深めてもらうことを目的とします。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定であるが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（Google Classroomを利用）を実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 図書館サービスの理念と意義 図書館の種類（国立、公共、学校、大学、専門、その他）と法律、サービスの目的、図書館サービスの理念、図書館を構成する4つのS（Space, Stock, Service, Staff）</p> <p>2回目 図書館サービスの変遷 図書館法成立（～1950年代）、『中小レポート』『市民の図書館』（1960～70年代）、日本の公共図書館の飛躍的発展（1980～90年代前半）、文化教養型から生活ビジネス型へ（1990から2000年代）、図書館経営の変革と新たなサービスへの模索（2010年代～現在）、感染症蔓延以降の図書館サービス</p> <p>3回目 資料提供サービスとデジタル化 閲覧（館内利用）、貸出、予約・リクエスト、文献送付、複写サービス、情報のデジタル化、著作権法</p> <p>4回目 情報提供サービス レファレンスコレクションの構築、レファレンスサービス（質問回答サービス）、情報検索サービス、カレントアウェアネス、SNSを活用したサービス</p> <p>5回目 図書館サービスの協力体制 図書館の種類を超えた連携、国立国会図書館と公立図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館</p> <p>6回目 課題解決支援サービス 多様化、複雑化する社会のなかでの情報サービスの重要性、課題解決の方法と手段の提示、ビジネス情報、健康・医療情報、法律情報、行政支援、心を支える情報</p> <p>7回目 図書館利用に困難を感じる人々へのサービス 心身の理由で不自由を感じる人々へのサービス、視覚、聴覚（発話困難）、肢体不自由、ディスレクシア（難読症）、精神的理由</p> <p>8回目 児童・青少年サービス（ヤングアダルト） 読書への支援、インターネット時代の読書論</p> <p>9回目 高齢者サービス 高齢化社会における図書館サービス</p> <p>10回目 多文化サービスと、社会的弱者・マイノリティへのサービス 社会・文化的背景の異なる人びとへのサービス、LGBTQ+へのサービス、アウトリーチサービス</p> <p>11回目 図書館施設とサービス 図書館建築、物理的環境（音、光、温度、湿度）の保全</p> <p>12回目 図書館の災害対策と危機管理 自然災害と図書館（地震と水害）、人災と図書館（火災）、感染症の蔓延と図書館</p> <p>13回目 利用者とのコミュニケーション 見える図書館員と見えない図書館員、迷惑を与える利用者への対応、広報活動と集会活動</p> <p>14回目 図書館経営とサービスの新展開 海外の図書館経営とサービスの新展開</p> <p>15回目 感染症の蔓延後の図書館サービス インターネットによる文献情報の提供、著作権の問題</p>
到達目標	<p>図書館に求められるサービスとは何であるのかを理解し説明できるようにする。</p> <p>公共図書館に求められるサービスとは何であるのかを理解し説明できるようにする。</p> <p>目的を果たすために行わねばならないサービスとは何なのかを理解し説明できるようにする。</p> <p>実施されている主要なサービスを理解し説明できるようにする。</p> <p>今後の発展を考えていく上で行わねばならないサービスについて理解し説明できるようにする。</p>
授業時間外の学習	<p>この講義の目的は、公共図書館で行われている各種サービスを理解することが主となるから、講義後公立図書館（できれば地元の公立図書館が望ましい）へ行って、学んだサービスを実際に体験してみるようにしてください。公共図書館を見学するときには、感染症対策を十分に施してください。</p>
評価方法	<p>最終レポートで評価します。</p>

テキスト	『図書館サービス概論』改訂 高山正也, 村上篤太郎編著. 樹村房, 2019 (現代図書館情報学シリーズ; 4) ISBN 978-4-88367-294-3
参考書	『中小都市における公共図書館』・『市民の図書館』・『公立図書館の任務と目標解説』・『多文化サービス入門』・『図書館のための個人情報保護』・『公立図書館員のための消費者』『障害者サービスと著作権法』 日本図書館協会 『図書館サービス論』塩見昇編 教育資料出版会 『ヤングアダルトサービス入門』半田雄二編 教育資料出版会
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	図書館における情報サービス活動の意義とその概要について解説し、質的多様化と量的激増が同時に進行している情報源の特質や利用法を明らかにする。また、情報源の変化は図書館の情報サービスをも変容させつつあるので、従来のレファレンスサービスから、情報検索サービスまでの総合的な理解をめざす。具体的には、レファレンスサービスならびに情報検索サービスについての解説、重要ツールであるレファレンスブック等の解説、さらには情報リテラシーの育成を含む図書館利用教育等について講義する。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	1回目 ガイダンス 2回目 情報サービスとは何か 3回目 情報サービスの種類 4回目 レファレンスサービスの機能 5回目 レファレンスサービスの理論と実際（1）：レファレンスプロセス 6回目 レファレンスサービスの理論と実際（2）：レファレンスサービスの原則 7回目 情報検索の理論と方法 8回目 発信型情報サービスの展開 9回目 各種情報源の特質と利用法（1）：情報メディア・文献を探す 10回目 各種情報源の特質と利用法（2）：論文・記事を探す 11回目 各種情報源の特質と利用法（3）：事項・事実の検索 12回目 各種情報源の評価 13回目 情報サービスに関わる知的財産権 14回目 図書館利用教育と情報リテラシーの育成 15回目 これからの情報サービス
到達目標	情報サービスの意義・理論と各種情報源の概要を学ぶことにより、変容しつつある現代の情報サービスの動向についての理解を深めることができる。また本講義は情報サービス演習と対をなすものであり、ここで学んだ理論・概要が演習の基礎となる。
授業時間外の学習	授業時に各種情報源を紹介するので、冊子体ものは本学図書館等で実際に手に取って確認すること。また、インターネット上の情報源も、実際にアクセスして内容を把握しておくこと。 ただし遠隔授業となった場合は、無理のない範囲内で情報を収集すればよい。
評価方法	ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（35%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（65%）に基づき評価。 レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	教科書を使用せず。必要時に資料配付。
参考書	山崎久道編集『改訂 情報サービス論』（樹村房、2019） *その他、必要時に紹介。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>公立図書館において乳幼児から高校生くらいまでを対象とする各種サービスや図書について総合的に学習し、社会教育における図書館の児童サービスを理解する。また、読み聞かせやブックトーク等を行うことによって実践的な力をつける。 なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：「子どもと図書館」のイメージについて考えてみる 子どもとは誰を指すのか、図書館ではどのように接するのか</p> <p>2回目 子どもの発達段階と本を読むということ 子どもの発達段階における読書とは何かを考える。</p> <p>3回目 乳幼児に対して図書館がすること 乳幼児への図書館としての取り組みを考える。</p> <p>4回目 児童・ヤングアダルトサービスとは 児童・ヤングアダルトサービスの意義と児童書を考える。</p> <p>5回目 読み聞かせとは 読み聞かせの意義と実際</p> <p>6回目 絵本について考える①乳幼児の場合 乳幼児に適した絵本とは</p> <p>7回目 絵本について考える②児童の場合 児童の発達・成長に適した絵本とは</p> <p>8回目 児童書について考える 絵本とどう違うのか</p> <p>9回目 やってみよう！読み聞かせ① 読み聞かせに挑戦し、振り返りを行う。</p> <p>10回目 やってみよう！読み聞かせ② 読み聞かせに挑戦し、振り返りを行う。</p> <p>11回目 ブックトークとは ブックトークとは何か</p> <p>12回目 さまざまな児童・ヤングアダルトサービスの取り組み 読書に関連してできることは何か</p> <p>13回目 やってみよう！ブックトーク① ブックトークに挑戦し、振り返りを行う。</p> <p>14回目 やってみよう！ブックトーク② ブックトークに挑戦し、振り返りを行う。</p> <p>15回目 振り返りとまとめ 司書が行う児童サービスの意義と実際をまとめる</p>
到達目標	児童サービスに関する基礎的な知識を得るとともに、読み聞かせやブックトーク等により具体的なサービスの方法を体験し、身につけ、さらに図書館における児童サービスを主体的に理解し、子どもたちと図書館の関係性を考えることができる。
授業時間外の学習	毎回の授業の該当部分を教科書で読んでおく。図書館に行き、絵本や児童書にどんなものがあるか、全体を見たり、自らのおすすめ絵本や児童書を見つける。
評価方法	授業への参加態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基礎的知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	望月道浩・平井歩実『児童サービス論（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望7）』学文社 2015
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>利用者が調べ物をする際に情報源を示して援助する業務を、「参考調査」「レファレンスサービス」という。情報源を探し当てて提供できるまでには、かなりの熟練を要する。まず情報源となり得る「資料群」を知り、どう業務を展開するかを学ぶ。学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 図書館における情報サービスとは</p> <p>2回目 情報サービスへの方針を決める（1）：方針策定にむけて</p> <p>3回目 情報サービスへの方針を決める（2）：体制・組織づくり</p> <p>4回目 地域性と利用者の情報ニーズ</p> <p>5回目 情報サービスを遂行するための情報源</p> <p>6回目 レファレンスコレクションの構成について（1）：コレクション形成の方針</p> <p>7回目 レファレンスコレクションの構成について（2）：レファレンスツールの選択</p> <p>8回目 レファレンスコレクションの構成について（3）：レファレンスコレクションの整備と評価</p> <p>9回目 一次文献と二次文献の相違と関連性を考える</p> <p>10回目 書誌・目録類を見してみる（学園図書館の蔵書から）</p> <p>11回目 書誌・目録類の評価（学園図書館の蔵書から）</p> <p>12回目 レファレンスブックの選書の訓練</p> <p>13回目 レファレンスブックを導入手段として情報源に近づく訓練</p> <p>14回目 レファレンス受付のプロセス（1）：受付</p> <p>15回目 レファレンス受付のプロセス（2）：インタビューの方法</p>
到達目標	情報源に行き着く為のレファレンスツールの存在を知ることができる。利用者への回答を価値ある、質の高い情報提供とすることができるようになる。二次文献の良書を見極めることができる。
授業時間外の学習	利用者のみならず、自分の研究・学習のためにも文献探索の方法を考える習慣を身につけるようにする。
評価方法	ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（50%）、提出物（25%）、発表（25%）に基づき評価。また、遠隔授業に変更の場合の評価は平常授業時に準ずる。発表についてはレポートとする。
テキスト	教科書を使用せず。必要時に資料配付。
参考書	必要時に紹介。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	この時間では、具体的にレファレンスサービスについて学び、演習を行う。利用者をよりの確な回答へと導くための方法について学ぶ。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。
授業計画	<p>1回目 情報検索の方法（1）：図書情報の特徴</p> <p>2回目 情報検索の方法（2）：図書情報のネットワーク情報資源の特徴</p> <p>3回目 情報検索の方法（3）：新聞・雑誌情報の特徴とネットワーク情報資源</p> <p>4回目 質問分野別情報提供の処理方法（1）：NDC 0類～3類</p> <p>5回目 質問分野別情報提供の処理方法（2）：NDC 4類～6類</p> <p>6回目 質問分野別情報提供の処理方法（3）：NDC 7類～9類</p> <p>7回目 外部機関へのレファレンス依頼の方法（1）：依頼状の書式・専門機関の把握</p> <p>8回目 外部機関へのレファレンス依頼の方法（2）：雑誌論文等の複写依頼</p> <p>9回目 図書館から発する情報サービス（1）：パスファインダーの作成1</p> <p>10回目 図書館から発する情報サービス（2）：パスファインダーの作成2</p> <p>11回目 レファレンスPOPの作成（1）：レファレンスPOPの作成意図</p> <p>12回目 レファレンスPOPの作成（2）：レファレンスPOPを作成する対象となる書物を選ぶ</p> <p>13回目 レファレンスPOPの作成（3）：実際に作成にかかる</p> <p>14回目 レファレンス記録の作成（1）：質問受付票～解決までの記録</p> <p>15回目 レファレンス記録の作成（2）：事例分析と活用</p>
到達目標	ネットによる情報収集に慣れている受講者が、「書物」という情報源の重要性を理解し、及びネットと冊子の長・短所を会得することにより活用できるようになる。活用範囲の広い「POP」が書けるようになる。
授業時間外の学習	インターネットによる情報は、ある事柄を知る上での端緒になる。検索するための語彙の選び方の修練を積むことを心がける。
評価方法	ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（50%）、提出物（25%）、発表（25%）に基づき評価。また、遠隔授業に変更の場合の評価は平常授業時に準ずる。発表についてはレポートとする。
テキスト	教科書を使用せず。必要時に資料配付。
参考書	必要時に紹介。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>図書館情報資源の中でも、図書館の機能を支える一大要素の「書物」を中心として、情報資源全般について重要点を説く。「情報資源」の選択・収集の責任・資料の維持管理・経営管理にまで言及したい。まず「何をどう選ぶか」の知識を得させる。</p> <p>図書館情報資源が選ばれ、書架上に配架されるまでの流れを学ぶ。図書館情報資源の構築ということを常に説き、時に応じて本学園図書館書庫等において、書架上に並んだ資料を見ながら進める。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 図書館情報資源の意義 図書館の知的自由・資料選択の自由（1）：「図書館の自由」の概念</p> <p>2回目 図書館情報資源の意義 図書館の知的自由・資料選択の自由（2）：特に選択の自由について</p> <p>3回目 図書館情報資源の種類（1）：印刷資料</p> <p>4回目 図書館情報資源の種類（2）：非印刷資料</p> <p>5回目 図書館情報資源の収集と選択（1）：選択の意義・歴史</p> <p>6回目 図書館情報資源の収集と選択（2）：資料の選択、選書論と方法論、選書の情報源</p> <p>7回目 図書館情報資源の収集と選択（3）：資料の収集方針と収集機構</p> <p>8回目 図書館情報資源の収集と選択（4）：出版流通システムについて</p> <p>9回目 特殊資料の収集（灰色文献、政府刊行物、地域資料等）</p> <p>10回目 図書館情報資源の管理（1）：資料の受入業務の流れ（含む予算管理）</p> <p>11回目 図書館情報資源の管理（2）：資料の更新・評価・除籍と廃棄・蔵書点検</p> <p>12回目 図書館情報資源の管理（3）：資料の保存・保管</p> <p>13回目 図書館情報資源の共有化</p> <p>14回目 種々の選書ツールを使って書物を選択（1）：販売書誌で</p> <p>15回目 種々の選書ツールを使って書物を選択（2）：新聞広告などで</p>
到達目標	<p>資料選択のためのツールの熟知に努力することで、資料の選択ができるようになる。書籍の流通過程から、一点の資料が利用に供されるまでの流れを把握することができる事になる。書店で新刊書を選ぶ楽しさを味わえる。</p>
授業時間外の学習	<p>学園図書館の蔵書構成を、配架の手助けをしながら学ぶ。その他のフロアワークも学ぶ。</p>
評価方法	<p>ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（50%）、提出物（25%）、発表（25%）に基づき評価。また、遠隔授業に変更の場合の評価は平常授業時に準ずる。発表についてはレポートとする。</p>
テキスト	<p>教科書を使用せず。必要時に資料配付。</p>
参考書	<p>岸田和明編著『改訂 図書館情報資源概論』（樹村房、2020） *その他、必要時に紹介。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	受講者は情報源である資料を組織化する図書館側からの意味と利用者側からの意義を考えると同時に、目録や書誌、分類法や件名法の理論、方法を理解する。また、図書館で行われている新しい組織化の事例を知り、これからの図書館情報源の組織化をどうしたらいいのかを考える。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：情報資源へのアクセスはみなさんどうしていますか。 私たちはどうしたら求める本にたどりつくのか、検索で本が見つかる理由を考える。</p> <p>2回目 図書館情報資源の組織化の意義と理論 図書館資料とは何か、図書館の機能とはなにかを考える。</p> <p>3回目 資料組織化のプロセスとその主な業務 資料組織化の大きな流れを捉える。</p> <p>4回目 図書館のメディアの種類と特性 一般的な図書館にあるメディアを知る</p> <p>5回目 図書館のメディアの構成と選択 司書はどのように図書館資料を構成するための選択をしたらいいのかを考える</p> <p>6回目 分類とは何か 図書を見つけるための分類と、分類の考え方を理解する。</p> <p>7回目 分類作業とはなにか 日本十進分類法を使い実際に行ってみる。</p> <p>8回目 件名法と件名作業 件名及びその意義を理解する。</p> <p>9回目 書誌と目録① 書誌と目録の違いを学ぶ</p> <p>10回目 書誌も目録② 所在記号と別置を確認する。</p> <p>11回目 アクセスポイント（標目）と配列 各標目を理解する。</p> <p>12回目 集中目録作業と共同目録作業 その意義と役割を考える。</p> <p>13回目 コンピュータと現代の図書館における資料整理 図書館における現在の資料整理の事例を知る。</p> <p>14回目 図書館の主人公は誰か：利用者とOPAC 図書館の資料は誰のためにあるのか、誰にとって資料検索は必要なのかを考える。</p> <p>15回目 情報資源の組織化を確認する 授業の振り返り</p>
到達目標	資料の組織化の仕組みを理解し、書誌記述法を理解し、基礎的な件名や分類を理解する。
授業時間外の学習	参考書に挙げた本を読む
評価方法	授業参加の意欲・態度（50％）レポート（50％） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。
テキスト	随時、印刷物を配布する。また、演習科目で指定した宮沢厚雄『目録法キイノート』 樹村房、宮沢厚雄『分類法キイノート』 樹村房を授業内容に応じて使う。
参考書	宮沢厚雄『目録法キイノート』 樹村房 宮沢厚雄『分類法キイノート』 樹村房 渡辺茂夫『学校図書館概論』 勉誠出版
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	情報資源組織の1つの要である目録法を具体的に学ぶ。目録カードの表記ができるようになる。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス・学内図書館見学 (図書館見学) 図書館内で気づいたことをメモする。選んだ本についている記号・番号を記録する。</p> <p>2回目 学内図書館見学 図書館で気づいたことを記録する。また、それぞれが図書館で本を選び内容と請求記号を確認し、図書館のどの場所にどのようなジャンルの本があったのか記録する。</p> <p>3回目 選んだ本について発表する。 それぞれが選んだ本の内容と置かれていた場所の発表をし、どこにどのように本が並べられているのかを考える。</p> <p>4回目 OPAC、目録、書誌、利用者について OPAC、目録、書誌の違いを理解し、利用者支援にどのように結びつけるか考える。</p> <p>5回目 日本目録規則について 『日本目録規則』と記録の方法を理解する。</p> <p>6回目 タイトルと責任表示 本タイトル、並列タイトル、部編名、別タイトル、責任表示、複数著者等を理解する。</p> <p>7回目 版表示、出版・頒布等の事項 班表示、出版・頒布についての基本事項を理解する。</p> <p>8回目 形態、注記、ISBN ページ数、大きさ、注記、ISBNの基本事項を理解する。</p> <p>9回目 書誌単位① 出版形態</p> <p>10回目 書誌単位② シリーズものセットものなど</p> <p>11回目 書誌階層① 2層以上の書誌階層</p> <p>12回目 書誌階層② 下位シリーズなどの表記</p> <p>13回目 書誌と目録法に関する演習</p> <p>14回目 見出し項目の選出と編成</p> <p>15回目 目録作成の実際：図書以外の資料</p>
到達目標	どんな本でも書誌を記述ができるようになる。
授業時間外の学習	OPACによる検索に慣れる。
評価方法	授業参加の意欲・態度 (50%) 演習課題 (50%) 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。
テキスト	宮沢厚雄『目録法キイノート』樹村房
参考書	『情報資源組織論 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3)』学文社、2012 『情報資源組織論及び演習 第2版』学文社、2016 『情報資源組織演習 (現代図書館情報学シリーズ 10)』樹村房、2013 『情報資源組織演習』ミネルヴァ書房、2016
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	本に代表される諸々の情報資源を分類することを理解し、それをどのように利用者の側にたって利用するかを考える。日本十進分類法の構成と分類の実際を理解しできるようになり、それが図書館でどのような役割を担っているのかを考える。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス みなさんはどうやって求める本に出会いますか。学内図書館で求める本に出会い、どのような出会い方をしたのかを発表する。</p> <p>2回目 ジャンル？分類？請求記号 なぜ分類するのか。利用者としての本の探しやすさを考えながら、日本十進分類法および補助表・関連索引を知り、請求記号の構成を理解する。</p> <p>3回目 日本十進分類法（NDC）の全体構成をみる：本表・補助表、関連索引 類（第1次区分）、綱（第2次）、目（第3次）、一般補助表、固有補助表等</p> <p>4回目 分類作業と分類規程 分類した結果の統一性を知る。</p> <p>5回目 主題と主題分析 主題をどのように捉えるか</p> <p>6回目 分類記号付与の基本手順</p> <p>7回目 日本十進分類表本表と階層構造</p> <p>8回目 主題の特定と関連索引</p> <p>9回目 分類演習①（0類～4類） 分類に加えて、集合知を理解する。</p> <p>10回目 分類演習①（5類～9類） 分類に加えて、集合知を理解する。</p> <p>11回目 補助表①（形式区分、地理区分、海洋区分）</p> <p>12回目 補助表②（言語区分、文学共通区分等）</p> <p>13回目 学術論文の見方とメタデータ</p> <p>14回目 分類演習問題総合</p> <p>15回目 利用者に分類をどのように伝えるか</p>
到達目標	日本十進分類法の構成と分類の実際を理解しできるようになり、それが図書館でどのような役割を担っているのかを考えることができる。
授業時間外の学習	学園図書館の書架を自由に見ながら、この書物になぜこの分類記号と考える訓練をする。
評価方法	授業参加の意欲・態度（50%）演習課題（50%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。
テキスト	宮沢厚雄『分類法キイノート』
参考書	『情報資源組織論 第2版（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3）』学文社、2019 『改訂 情報資源組織演習（現代図書館情報学シリーズ 10）』樹村房、2017 『情報資源組織論及び演習 第2版（ライブラリー図書館情報学 9）』学文社、2016
備考	

講義科目名称： 図書館情報資源特論

授業コード： 223018

英文科目名称： Advanced Theory of Library Information Resources

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	図書館の資料の活用や著作権、誰もが図書館資料を使うための合理的配慮などについて理解すると同時に自らの考え方を深める。 学習成果の指標はA-③である。 本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。
授業計画	<p>1回目 図書館情報資源の活用 図書館情報資源には何があるのか、どのように活用するのか。 活用の場としての集会活動</p> <p>2回目 行政資料・地域資料 行政資料・地域資料とその活用を考える</p> <p>3回目 学術資料とは デジタル化された学術資料の活用</p> <p>4回目 デジタル化された資料 国立国会図書館デジタル資料を見る</p> <p>5回目 図書館における人的資源とは何か 図書館における人的資源とは何か</p> <p>6回目 情報資源としての図書の選択 選書はどうするか</p> <p>7回目 レファレンスブックの種類と活用① 図書館で辞書・事典・年鑑・百科事典などを実際に使い、例の調査してみる。</p> <p>8回目 レファレンスブックの種類と活用② 調査の結果を発表する</p> <p>9回目 著作物と著作権 図書館と著作権の関わりの基本事項を知る。</p> <p>10回目 著作権法の意義と著作物について 何を保護するのか。映画・美術など。</p> <p>11回目 著作者人格権と著作権の内容 総説、貸与権など</p> <p>12回目 図書館における複製</p> <p>13回目 合理的配慮について</p> <p>14回目 点字図書館について</p> <p>15回目 図書館における情報資源の活用実践 ビブリオバトル</p>
到達目標	図書館の資料の活用や著作権、誰もが図書館資料を使うための合理的配慮などについて理解し、自らの考え方を持つ。
授業時間外の学習	身近な図書館において誰もが利用しやすい情報資源のあり方を考える。
評価方法	授業参加の意欲・態度（50%）課題（50%） 遠隔授業に変更の場合の評価は、平常授業時に準ずる。発表はレポートとする。
テキスト	教科書はない
参考書	黒澤 節男 『Q&Aで学ぶ 図書館の著作権基礎知識（ユニ知的所有権ボックス）』 太田出版 吉井潤 『事例で学ぶ図書館サービス概論』 青弓社
備考	

講義科目名称： 図書・図書館史

授業コード： 231013

英文科目名称： History of Books and Library

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本における公立図書館の成立とその後の発展を理解し、図書館の存在意義の変遷をたどるとともに人びとにとってのその時々々の図書館の意味を考える。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業になった場合は、①課題型学修で実施する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：図書館は何のためにあるのか</p> <p>2回目 日本の公立図書館の萌芽～明治期の図書館</p> <p>3回目 日本の公立図書館の成立</p> <p>4回目 日本の公立図書館の成立～地方の図書館</p> <p>5回目 戦時の図書館</p> <p>6回目 戦後の図書館～DVD『格子なき図書館』</p> <p>7回目 CIE図書館とその影響</p> <p>8回目 戦後の社会教育関連三法</p> <p>9回目 『中小レポート』『市民の図書館』の影響</p> <p>10回目 図書館サービスとは～DVD『図書館と子どもたち』</p> <p>11回目 市民による図書館づくり</p> <p>12回目 公立図書館は無料貸本屋か</p> <p>13回目 公立図書館の運営とサービスの変化</p> <p>14回目 公共に資する図書館：私設図書館と家庭文庫とは</p> <p>15回目 まとめ～近代以降の日本では、図書館の何が発展し、今後何をすべきか考える</p>
到達目標	日本における近代以降の図書館の成立と、人びとにおける図書館の存在の意義、および、現代の市民参加の意義を理解することで、将来の図書館のありようを考えることができる。
授業時間外の学習	公立図書館を活用し、図書館史に関する本を読む。参考になる図書は紹介する。
評価方法	授業への参加状況を含む授業態度50%、提出物50% 遠隔授業を実施した場合は、レポート提出(100%)とする。
テキスト	印刷物を適宜配布する。
参考書	*授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校教育における学校司書の役割とはなにか、司書教諭との違いはあるのか、児童・生徒の調べ学習とはなにか、どのような資料や館内レイアウトが利用の促進に適しているのか、各々が学校教育に必要な学校図書館司書の姿を理解することができる。 なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：学校図書館って何？公立図書館とどう違うの？</p> <p>2回目 児童・生徒の発達と学校教育</p> <p>3回目 学習指導要領・学校図書館・学校図書館法</p> <p>4回目 学校図書館の資料とはどのようなものか</p> <p>5回目 学校図書館における利用指導とは何か</p> <p>6回目 対話に着目する学校図書館</p> <p>7回目 調べ学習と学校図書館① 課題設定と資料探索</p> <p>8回目 調べ学習と学校図書館② 資料の検討と課題解決</p> <p>9回目 調べ学習と学校図書館③ まとめと発表</p> <p>10回目 学校図書館における利用促進を促す資料収集と活用とは何かを考える</p> <p>11回目 学校図書館におけるレファレンスサービスとは</p> <p>12回目 学校図書館において児童生徒の利用を促すレイアウトを考える①</p> <p>13回目 学校図書館において児童生徒の利用を促すレイアウトを考える②</p> <p>14回目 教員への支援と働きかけ</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	学校教育における学校司書の役割、学習指導要領にあつて学校図書館の役割を理解し、より良い学校図書館像を描き、支援のあり方を理解することができる。
授業時間外の学習	学校図書館法および学習指導要領について文部科学省のサイトに記述があるので概略を見ておくこと。
評価方法	授業への参加態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	西巻悦子『学校図書館の役割と使命 学校経営・学習指導にどう関わるか』近代科学社Digital 2021
参考書	『学習指導と学校図書館（探究 学校図書館学第3巻）』 全国学校図書館協議会、2020 『学習指導と学校図書館（学校図書館学）』 大平 睦美著・編集、青弓社、2020 *その他、授業時に紹介する。
備考	

講義科目名称： 読書と豊かな人間性

授業コード： 153009

英文科目名称： Reading and Rich Sense of Humanity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>児童生徒にとって、活字に代わる娯楽性の高い物が氾濫している昨今、あらためて読書の大切さ素晴らしさを知る機会として講義を進める。学校図書館の機能を高め、資料を充実させることが学校司書の大切な役目であり、その役目を十分に果たすための資料群についても話を進める。</p> <p>学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施する予定だが、やむを得ず全面遠隔授業になった場合は、③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 なぜ読書が必要か、何のために読むのか</p> <p>2回目 子どもの読書の歴史</p> <p>3回目 読書教育と読書指導の流れ</p> <p>4回目 学校図書館における読書指導の役割</p> <p>5回目 読書教育・活動における司書教諭の役割</p> <p>6回目 児童生徒の発達過程と読書興味の発達段階</p> <p>7回目 児童生徒のための読書資料とその特性（1）：6回目をふまえて前期読書期・初歩読書期</p> <p>8回目 児童生徒のための読書資料とその特性（2）：基礎読書成熟期・成熟読書期</p> <p>9回目 児童生徒のための読書資料とその特性（3）：選書と選書ツール</p> <p>10回目 読書指導の実際について</p> <p>11回目 どんな方法で児童生徒と資料を結びつけるか（1）：読書環境の整備</p> <p>12回目 どんな方法で児童生徒と資料を結びつけるか（2）：ブックトーク・ストーリーテリング・読書会など</p> <p>13回目 どんな方法で児童生徒と資料を結びつけるか（3）：読書の機会をどう与えるか</p> <p>14回目 地域社会との連携についての数々</p> <p>15回目 読書への導き方を考える 自身を学校司書として</p>
到達目標	<p>実際に、学校司書の職に就いたつもりで、15回の講義一つ一つを理解することを目標とする。児童生徒の年齢層の「読書資料」に精通できることになる。「読書会」を主宰できるようになる。図書委員会の指導ができるようになる。</p>
授業時間外の学習	<p>読書指導の能力は、自分に読書生活の体験が乏しいと大変難しいため、読書の習慣を身につけるようにする。</p>
評価方法	<p>ディスカッションを含む授業への参加意欲（50%）、提出物（25%）、発表（25%）に基づき評価。また、遠隔授業に変更の場合の評価は平常授業時に準ずる。発表についてはレポートとする。</p>
テキスト	<p>教科書を使用せず。必要時に資料配付</p>
参考書	<p>「探究 学校図書館学」編集委員会編著『読書と豊かな人間性』（全国学校図書館協議会、2020） *その他、必要時に紹介。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
岩井千華 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>学校教育における学校図書館の役割を明らかにし、学校図書館の考え方、教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般について基礎的な事柄を学ぶ。また、学校司書の任務と役割、更には学校図書館司書教諭との違いなど教育における司書のあり方を考えるとともに、適したメディアや学校図書館活動等についても具体的に理解することをめざす。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：学校図書館と公立図書館はどう違うのか</p> <p>2回目 学校図書館の理念と教育的意義</p> <p>3回目 司書は教育者か、コミュニケーターか</p> <p>4回目 学校図書館の歴史的経緯</p> <p>5回目 学校図書館に関する法律および教育行政</p> <p>6回目 学校図書館の経営</p> <p>7回目 学校図書館司書教諭とその役割</p> <p>8回目 学校図書館メディアの選択と管理</p> <p>9回目 学校図書館の活動内容①</p> <p>10回目 学校図書館の活動内容②</p> <p>11回目 学校図書館のサービス・活動①（小学校）</p> <p>12回目 学校図書館のサービス・活動②（中学校）</p> <p>13回目 学校図書館のサービス・活動③（高校・特別支援学校）</p> <p>14回目 図書館協力、学校図書館への支援</p> <p>15回目 学校図書館の課題と展望</p>
到達目標	学校図書館全般に関する基礎的な事項が理解でき、学校教育における学校図書館の意義とあり方を考えることができるようになる。
授業時間外の学習	学校図書館に関する参考書などに目を通す。また、学校図書館に関する新聞記事などを読み、記事の概要を出典とともに記録しておく。
評価方法	授業への参加意欲（30%）、レポート（70%）に基づき評価する。 ただし遠隔授業となった場合は課題レポートによる評価とする。 レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	西巻悦子『学校図書館の役割と使命 学校経営・学習指導にどう関わるか』近代科学社Digital 2021
参考書	渡邊重夫『学校経営と学校図書館』青弓社 2015 中村百合子『学校経営と学校図書館』樹村房 2022
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
秋山美和子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図る。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：この授業の進め方や課題などの説明</p> <p>2回目 学校図書館サービスの意義と方法</p> <p>3回目 学校図書館の運営</p> <p>4回目 資料提供サービス・情報提供サービス</p> <p>5回目 利用環境の整備（1）：図書館資料の整備</p> <p>6回目 利用環境の整備（2）：施設・設備の整備</p> <p>7回目 児童生徒への読書支援</p> <p>8回目 学習支援と情報リテラシー（1）：学習支援の意義</p> <p>9回目 学習支援と情報リテラシー（2）：探究学習の支援</p> <p>10回目 学校図書館利用教育</p> <p>11回目 教職員への支援</p> <p>12回目 特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援</p> <p>13回目 学校図書館の広報活動・渉外活動（1）：広報活動</p> <p>14回目 学校図書館の広報活動・渉外活動（2）：渉外活動</p> <p>15回目 学校図書館サービスと著作権</p>
到達目標	学校図書館サービス全般に関する基本的な事項が理解できる。
授業時間外の学習	学校図書館に関する各種の報道、とりわけサービスの動向に留意し、記事の概要を出典とともに記録しておく。
評価方法	ディスカッションを含む授業への参加意欲・態度（遠隔授業の場合は課題の提出状況）（50%）、レポート（遠隔授業の場合は課題の中で提示するレポート課題）（50%）に基づき評価。 レポートは各自の意見を記述する形式が主となるが、到達目標に掲げている「基礎知識」の獲得のため、参考文献（参考URL）を明記していないものは評価の対象にならないので注意すること。
テキスト	学校図書館問題研究会編『学校司書のための学校図書館サービス論』（樹村房、2021）
参考書	小川三和子著『学校図書館サービス論』（青弓社、2018） *その他、必要時に紹介。
備考	

講義科目名称： 学校教育概論

授業コード： 114008

英文科目名称： Survey of School Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
熊倉志乃 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	学校教育の変遷や現状と課題、児童生徒の心身の発達などの基本的事項についての理解を図る。学校教育の現状についてより具体的に理解するため、事例をもとにした演習やグループディスカッションを行う。 なお、学習成果の指標は、A-③である。 遠隔授業を実施する場合には②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と③オンデマンド型学修を組み合わせ実施する。
授業計画	<p>1回目 学校教育の意義と目標</p> <p>2回目 学校教育制度の成り立ちと歴史</p> <p>3回目 教育制度と行政</p> <p>4回目 教育課程の意義と学習指導要領</p> <p>5回目 学校教育と教科書</p> <p>6回目 学校教育と地域連携</p> <p>7回目 児童生徒の心身の発達と学習の過程①</p> <p>8回目 児童生徒の心身の発達と学習の過程②</p> <p>9回目 特別の支援を要する児童生徒に対する理解①</p> <p>10回目 特別の支援を要する児童生徒に対する理解②</p> <p>11回目 教師の役割とチーム学校</p> <p>12回目 学校現場での実践事例①</p> <p>13回目 学校現場での実践事例②</p> <p>14回目 学校教育における諸課題①</p> <p>15回目 学校教育における諸課題② まとめ</p>
到達目標	学校教育の変遷や現状と課題、児童生徒の心身の発達などの基本的事項について理解することができる。
授業時間外の学習	現場での取組や時事問題を適宜授業で扱い、映像、ニュース等を通して視野を広げられるような課題を提示するので、授業後、レポートとして提出する。
評価方法	課題提出（70%）、授業への参加意欲・態度（30%）等総合的に評価する。 遠隔授業に移行した場合も、評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず。 適宜資料を配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 博物館概論

授業コード： 112009

英文科目名称： Introduction To Museology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	資格必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	博物館の歴史や関係法規をはじめ、博物館で行われている様々な活動の現状と課題を概観し、博物館や学芸員とは何か、どうあるべきかについて考える。また、博物館が資料の収集、整理・保存、調査研究、展示（教育普及）を通して、社会のあらゆる人に生涯学習の場を提供する社会教育機関であることを説明する。なお、学習成果の指標は A-③である。 本授業は、対面学修を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション —博物館をイメージする—</p> <p>2 回目 博物館学と博物館</p> <p>3 回目 博物館の基本的機能 1 —収集から保管へ—</p> <p>4 回目 博物館の基本的機能 2 —調査研究と展示・教育普及—</p> <p>5 回目 欧米の博物館史 1 —生成から近代博物館の誕生まで—</p> <p>6 回目 欧米の博物館史 3 —現代欧米の博物館—</p> <p>7 回目 日本の博物館史 1 —博物館前史から近代博物館の萌芽—</p> <p>8 回目 日本の博物館史 2 —戦前の日本博物館史—</p> <p>9 回目 日本の博物館史 3 —戦後の日本博物館史—</p> <p>10 回目 生涯学習と博物館活動 1 —対話と連携—</p> <p>11 回目 生涯学習と博物館活動 2 —望ましい博物館のあり方と基準—</p> <p>12 回目 生涯学習と博物館活動 3 —原則と行動規範—</p> <p>13 回目 博物法と関連法規</p> <p>14 回目 広がる博物館活動</p> <p>15 回目 博物館の今日的課題を考える</p>
到達目標	博物館は、資料の収集・整理・保存を行い、資料を後世につなぐ役割を担う場や、調査研究や展示（教育普及）活動を通して、資料の学術的価値を周知する場所であること、さらに人々が主体的な興味に基づき自主的に学ぶための生涯学習の場であることが理解できる。
授業時間外の学習	ひと口に博物館といっても、扱う資料の種別や重視する機能、設置者の別などにより多種多様であるから、余暇を利用し、身近な博物館に足を運ぶことをすすめる。
評価方法	小テストないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基にして、総合的に評価する。遠隔授業の場合は、レポート（50%）および授業への参加意欲（50%）を総合して評価する。
テキスト	事前に講義資料を配布する。
参考書	「新時代の博物館学」全国大学博物館学講座協議会西日本部会 2012
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>近年のパンデミック・災害・紛争・環境問題などの影響を受けて、大きく変化している現代社会のなかで、博物館がどのように運営され、どのように地域社会との連携を深め、博物館活動を活性化させていけるのかを学習する。現在、文化財の活用、観光立国、地域創生などの国の政策を実施していくうえで大きな役割を果たすことが博物館には期待されており、令和5年には法制度が改正された。一方で、ICOM（世界博物館会議）など国際的な博物館の動向やSDGsも博物館経営にとって無関係ではない。こうした、最近の博物館・文化財など文化行政の変化を踏まえ、博物館と利用者との関係についての理解、利用者主体の博物館の理念と運営・マネジメント、博物館の機能と役割について、総合的な観点から学ぶ。講義では、博物館運営の手法と、その実践例を博物館の館種や館の規模を踏まえながら説明し、博物館特有の目的と使命の達成について理解を深める。特に、地域博物館を事例として、運営の実態についても紹介する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合には、③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 博物館経営と博物館の使命</p> <p>2回目 新しい博物館の動向 21世紀の博物館行政の変化・文化行政の変化と観光立国・地方創生・SDGs</p> <p>3回目 ICOMと博物館の国際的基準・規範</p> <p>4回目 ミュージアム・マネジメントの内容と意義、構成要素</p> <p>5回目 博物館の法規と制度の推移</p> <p>6回目 博物館の行政</p> <p>7回目 博物館の財政</p> <p>8回目 博物館の施設と設備</p> <p>9回目 博物館の組織と職員、倫理規定</p> <p>10回目 博物館の連携</p> <p>11回目 多様な利用者のニーズと博物館（広報・マーケティング、ミュージアム・ショップ、ICTなど）</p> <p>12回目 市民参加・地域社会と博物館</p> <p>13回目 博物館の評価</p> <p>14回目 博物館の危機管理</p> <p>15回目 まとめ 現代社会の変化を踏まえつつ、博物館学的観点から博物館のマネジメントと活動を考える</p>
到達目標	博物館概論や各論、実習で学んだことを総合して、博物館学的な観点から、博物館の経営・運営（ミュージアム・マネジメント）について理解できる。博物館の理念や専門性を踏まえた、博物館の使命（ミッション）達成のための管理・運営（マネジメント）・評価等について理解し、それを実践できる学芸員となる。そして、国の政策や社会の変化に対応しながら、質の高い博物館活動を行っていくことのできる能力を身につける。
授業時間外の学習	博物館概論や各論、実習で学んだ、資料の展示・教育普及・調査研究・収集保存など、博物館の使命（ミッション）達成のための機能・活動について理解した上で、積極的に各地の博物館展示を見学したり、講座やイベントなどの事業、ボランティア活動等に参加する。また各地の博物館のホームページを閲覧し、博物館のミッションに基づく活動や事業、施設・設備などを調べて特徴をまとめておく（博物館メモの作成）。一利用者の視点だけではなく、学芸員としての視点から博物館の活動を見学・参加したり、調べたりする。従来の文化財行政、文化政策、社会教育・生涯学習などの枠にとらわれない博物館の新しい活動・多様な活動について気付く。

評価方法	授業への参加意欲（30％）と、授業時の確認テスト（40％）、課題レポート（30％）により評価する。 遠隔授業となった場合には、授業への参加意欲（30％）、授業時の確認テスト（40％）、課題レポート提出（30％）により評価する。
テキスト	教科書を利用せず。授業時にレジユメを配布する。
参考書	リュック・ブノワ 水嶋栄治訳『博物館学への招待』（白水社 2002年） 加藤有次他編『新版博物館学講座12博物館経営論』（雄山閣 1999年） 地方史研究協議会編『歴史資料の保存と地方史研究』（岩田書院 2009年） 伊藤寿朗『市民のなかの博物館』（吉川弘文館 1993年） 博物館法令研究会編『改正博物館法 詳説・Q&A 地域に開かれたミュージアムをめざして』（水曜社 2023年）
備考	

講義科目名称： 博物館資料論

授業コード： 212011

英文科目名称： Theory of Cataloging Museum Collection

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	博物館の主要な活動の一つに資料の収集や展示があるが、博物館機能を果たす上で、博物館資料を熟知することが必要不可欠になる。ここでは、博物館活動における博物館資料の位置づけ考えとともに、博物館機能を果たす上で、どのように資料を扱い、収集・整理・保存、調査研究を行って活用につなげていくか、その理論や方法に関する知識と技術を学ぶ。なお、学習成果の指標は A-③である。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーションー博物館資料論で学ぶことー</p> <p>2回目 博物館資料とは何か</p> <p>3回目 博物館資料と収集・整理</p> <p>4回目 博物館資料と収集・管理</p> <p>5回目 博物館資料と調査研究</p> <p>6回目 博物館資料と展示・教育普及</p> <p>7回目 絵画資料の収集・整理と取扱い</p> <p>8回目 考古資料の収集・整理と取扱い</p> <p>9回目 民俗資料の収集・整理と取扱い</p> <p>10回目 文化財としての古写真</p> <p>11回目 古文書の整理・保管と取扱い</p> <p>12回目 料紙としての和紙</p> <p>13回目 刀剣の保管と取扱い</p> <p>14回目 自然系資料の収集・整理・調査研究</p> <p>15回目 これからの博物館と博物館資料</p>
到達目標	博物館資料が多岐にわたることを理解し、博物館活動における博物館資料の位置づけや正しい取り扱いができる。また、博物館資料の収集・整理・調査研究の在り方を通じて、展示・公開（教育普及）、保存・継承することが博物館の重要な役割であることが理解できる。
授業時間外の学習	身近にあるものを使い、取り扱いに慣れる。
評価方法	小テストないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基にして、総合して評価する。遠隔授業の場合は、レポート（50%）の提出および授業への参加意欲（50%）を総合して評価する。
テキスト	事前に講義資料を配布する。
参考書	佐々木利和「博物館資料論」 放送大学教材 2012
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	資格必修
担当教員			
藤田典夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>博物館資料（文化財）は人類共有の財産であり、その資料が将来の人類と社会に活用され、文化の発展に寄与することを前提としている。そのため博物館は、計画性のある資料保存を行っていかなければならない。</p> <p>本授業では、まず博物館資料保存の歴史と博物館資料の置かれている環境、具体的な資料の性質や保存方法、取り扱いに関する基礎的な知識を習得する。次に、これらを前提として、博物館が果たす、自然環境を含めた将来の地域社会における資料の情報（価値）の活用や継承といった責務について講義を行う。</p> <p>なお学習成果の指標はA-①である。</p> <p>授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の説明 - 博物館資料保存総論 -</p> <p>2回目 資料の保存環境 1 - 温湿度環境 -</p> <p>3回目 資料の保存環境 2 - 光と照明 -</p> <p>4回目 資料の保存環境 3 - 室内空気汚染 -</p> <p>5回目 資料の保存環境 4 - 生物被害 -</p> <p>6回目 資料の保存環境 5 - 伝統的保存方法 -</p> <p>7回目 資料の保存環境 6 - 屋外 -</p> <p>8回目 災害・事故</p> <p>9回目 資料の被災防止と救援活動</p> <p>10回目 資料の保全 1 - 資料の状態調査による現状把握 -</p> <p>11回目 資料の保全 2 - 金属製品・木製品の修復・修理 -</p> <p>12回目 資料の保全 3 - 紙資料の修復・修理 -</p> <p>13回目 資料の保全 4 - 資料の梱包と輸送 -</p> <p>14回目 ひろがる博物館の役割</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	博物館における資料保存及びその保存・展示環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識を習得できる。また、地域社会と文化財の関係における活用・還元方法を計画できるようになる。
授業時間外の学習	博物館（資料館）見学において、資料を鑑賞（見学）するだけでなく、展示環境や展示方法も見るよう努力する。 地元の文化財や伝統・伝承を探し、その歴史を学んでおく。
評価方法	講義への参加意欲・態度（45%）、小レポート（25%）、課題（30%）に基づき評価。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	講義時に随時資料を配布。
参考書	『博物館資料保存論』石崎武志編 講談社 2012年 『文化財の保存環境』東京文化財研究所編 中央公論美術出版 2011年
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>博物館学芸員の専門的・教育的な仕事の一つであり、かつ博物館と利用者の最大の接点の場である「博物館の顔」とも言える展示について、歴史、形態、技法、資料保護などを最新の技術についても触れながら概説し、展示の意義を理解する。あわせて地域博物館の展示の実例・実務を紹介し、特に展示の実際や解説活動について、企画・計画、実施、結果・反省、評価・改善のサイクルを踏まえて学ぶ。また文化財を積極的な公開・活用を求める最近の動向や、デジタル化による技術的革新も踏まえて、展示効果と資料保護の双方の観点から解説する。講義では、まず博物館の中での展示活動について、博物館の基本的機能と最近の傾向を踏まえながら概説する。次に、おもに歴史系の地域博物館の事例を参考としながら、専門的事務や企画・設計・制作等を含めた展示業務の実務を紹介する。そして、資料の展示に必須である、専門的知識を踏まえたさまざまな解説法を紹介し、ワークシートにより解説文を作成する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 博物館と展示（1）ガイダンスと受講生の体験発表</p> <p>2回目 博物館と展示（2）博物館の理念・機能、教育的役割と展示</p> <p>3回目 博物館と展示（3）「展示」と「陳列」</p> <p>4回目 博物館と展示（4）展示の分類</p> <p>5回目 博物館と展示（5）展示形態の歴史と博物館展示の現在</p> <p>6回目 博物館展示の実際（1）展示の企画から終了まで</p> <p>7回目 博物館展示の実際（2）展示の企画・設計と展示構成、資料の配置</p> <p>8回目 博物館展示の実際（3）展示の技術と技法（資料・用具・ケース）</p> <p>9回目 博物館展示の実際（4）展示の技術と技法（照明・機器・造形）と最新技術（AR、VR、ICTなど）</p> <p>10回目 博物館展示の実際（5）展示の評価とアンケート</p> <p>11回目 地域資料の展示解説（1）展示資料のキャプションと解説文</p> <p>12回目 地域資料の展示解説（2）展示資料について調べる（ワークシート）</p> <p>13回目 地域資料の展示解説（3）資料キャプションと解説文を作る（専門的検討）</p> <p>14回目 地域資料の展示解説（4）資料キャプションと解説文を作る（博物館的・教育的検討）</p> <p>15回目 地域資料の展示解説（5）資料キャプションと解説文を作る（発表）</p>
到達目標	博物館の展示について、企画立案、展示法、展示環境、専門性、デザイン、ICT、専門的事務など学芸員として必要な基本的な知識やスキルを理解できる。展示キャプションや解説文を作成するワークを通じて、最も基本となる展示作業の一部を経験できる。
授業時間外の学習	講義で取り上げた博物館展示の形態や方法・技法を踏まえて、積極的に各地の博物館展示を見学し、記録しておくこと（博物館メモの作成）。課題のワークにあたっては、ウェブだけではなく、現地見学や図書館等での文献調査を行うこと。展示の基本的要素を具体的に理解するとともに、特にデジタル技術を使った新しい展示法にも注意すること。キャプションと解説文の作成については、日本史フィールドの各専門の講義・演習で基礎力を培っておくこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲（30％）と、授業時のワークシート（40％）、課題（30％）により評価する。</p> <p>遠隔授業となった場合には、授業への参加意欲（30％）、授業時の課題提出（40％）、ワークシートの提出（30％）により評価する。</p>

テキスト	教科書を使用せず。授業時にレジュメを配布する。
参考書	青木豊編『人文系博物館展示論』（雄山閣 2013年） 日本展示学会編『展示論：博物館の展示をつくる』（雄山閣 2010年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>法規では、博物館は社会教育と文化芸術のための施設として位置づけられている。また普遍的な意味でも、博物館は利用者・来館者へ対する教育的機能を有しており、学校教育との連携をはじめ、生涯学習や文化芸術活動への支援が期待されている。直接・間接に人々へ訴えかける展示・講座などの博物館のさまざまな教育活動は、専攻分野の研究とともに学芸員の最も重要な仕事のひとつであろう。本講では、博物館における教育・普及活動について主に生涯学習の観点から概説し、地域博物館を事例としてさまざまな活動形態を学ぶ。加えて、最近求められてきている、観光、まちづくり、福祉など教育以外の分野との連携にも触れながら、講座・講演会などの学習支援、ICTの活用、学校教育との連携、社会教育との連携、地域社会や地域観光との連携など、学芸員が関わるさまざまな教育活動を紹介する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1 回目 博物館の教育活動（1）ガイダンスと博物館の定義</p> <p>2 回目 博物館の教育活動（2）博物館の使命・機能とその教育的役割</p> <p>3 回目 博物館の教育活動（3）博物館における教育と生涯学習・社会教育</p> <p>4 回目 博物館の歴史と教育（1）博物館の歴史・変化と博物館教育</p> <p>5 回目 博物館の歴史と教育（2）日本の博物館の歴史と社会教育</p> <p>6 回目 博物館の歴史と教育（3）日本の博物館の3世代論と教育活動の変化</p> <p>7 回目 博物館の教育活動（4）博物館教育の対象者と学習法、コロナ禍でのICTを活用した教育活動</p> <p>8 回目 博物館の教育活動（5）新しい教育観 博物館の学びの特性とMI理論に基づく7つのアプローチ</p> <p>9 回目 教育活動の実際（1）博物館の教育活動の諸形態と連携、観光・まちづくり・福祉など多様な博物館の役割</p> <p>10 回目 教育活動の実際（2）講座・講演会の企画・開催と参加者の声・評価</p> <p>11 回目 講座の実例（1）古文書講座</p> <p>12 回目 講座の実例（2）体験講座</p> <p>13 回目 教育活動の実際（3）講座を企画する</p> <p>14 回目 教育活動の実際（4）講座企画書を作る</p> <p>15 回目 教育活動の実際（5）講座企画書を作る（発表）</p>
到達目標	<p>社会教育、学校教育など、「教育」と関わりが深い博物館の教育・普及活動について理解できる。特に近年では、利用者・来館者の主体的な学習活動への支援が博物館に求められており、そのための諸活動（学習支援活動）について理解できる。また従来の講座や体験的学習といった教育・普及活動のほか、コロナ禍を経て新しい展開を見せつつあるICTの活用など今日的な学習支援のあり方についても理解できる。最近の博物館に求められている役割の多様化にも配慮し、地域社会や観光、まちづくり、福祉などの諸分野との関わりについても理解する。ワークシートにより講座の企画を作成して見ることで、教育普及活動について具体的に理解できる。</p>
授業時間外の学習	<p>博物館の教育普及活動を理解するために、学生自身がこれまで体験・経験した博物館の事業（講座・ワークショップ・観察会・現地見学会・おうちミュージアムなど）や体験・実験的展示について、まとめておくこと。また、積極的に各地の博物館の教育活動へ参加し、あるいは各館のホームページなどでそれを調べて、記録しておくこと（博物館メモの作成）。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（30%）と、確認テスト（40%）、ワークシート（30%）により評価する。</p>

	遠隔授業となった場合には、授業への参加意欲（30%）、授業時の課題提出（40%）、ワークシートの提出（30%）により評価する。
テキスト	教科書は使用せず。授業時にレジユメを配布する。
参考書	青木豊編『人文系博物館教育論』（雄山閣 2014年） 柿崎博孝他編『博物館教育論 改訂第2版』（玉川大学出版部 2022年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	資格必修
担当教員			
小菅将夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	博物館は情報集積機関であり、メディアそのものでもあり、まず、博物館における情報の意義を適切に理解することが基本となる。近年におけるIT(情報技術)ICT(情報・コミュニケーション技術)はめまぐるしく発達しており、博物館においても様々な形で、ITやICTを利用している。特にインターネットの利用は博物館の情報発信の重要なToolとなっている。本授業では、視聴覚教育の歴史と近年の技術の進歩、博物館におけるその意義と利用の在り方を確認する。このことにより、情報とその伝達の重要性を再認識し、博物館運営に必要な情報の管理と発信についての基礎的な知識を学修することを目的とする。 なお、学習成果の指標はA-③である。 遠隔授業を実施する際は、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用予定）で実施する。
授業計画	<p>1 回目 高度情報化社会と博物館（ガイダンス）、博物館における情報とメディアについて 博物館における情報の意義とメディアの重要性について</p> <p>2 回目 博物館における情報とメディアの基礎 基本事項の学習と記号論的にみた情報とメディアについて</p> <p>3 回目 博物館とメディアの発達史 メディアの発達の歴史と博物館情報の発信方法の歴史について</p> <p>4 回目 博物館におけるメディア・リテラシー（1） 写真画像とビデオ映像の発達史と博物館について</p> <p>5 回目 博物館におけるメディア・リテラシー（2） メディアを活用した様々な展示・情報発信方法について</p> <p>6 回目 博物館における解説 博物館展示における解説文とその作成について</p> <p>7 回目 博物館資料のドキュメンテーションとデータベース 博物館資料のドキュメンテーション化とデータベース化について</p> <p>8 回目 博物館におけるデジタル・アーカイブの構築の現状と課題 デジタル・アーカイブ構築とその現状、さらにその課題について</p> <p>9 回目 博物館におけるインターネット利用 ホームページからの情報発信及び情報発信センターとしての社会的ニーズについて</p> <p>1 0 回目 博物館における出版活動 展示図録や年報、紀要などの出版・広報による情報発信について</p> <p>1 1 回目 ユニバーサル・ミュージアムと情報、メディア 障がい者にかかわらず、様々な利用者に優しい博物館とその情報発信について</p> <p>1 2 回目 博物館における知的財産の管理とその方法 博物館情報の知的財産権と情報倫理及び情報公開の方法</p> <p>1 3 回目 博物館情報に著作権の取り扱い 博物館情報に著作権の保護等の問題について</p> <p>1 4 回目 身近な博物館における情報とメディアの活用及び実情 北関東地方を中心とした博物館における情報とメディアの活用状況について</p> <p>1 5 回目 総括事業 博物館の情報・メディアが今後どのような姿に発展について、総括的に検討する</p>
到達目標	①博物館における情報の意義と管理・活用方法を理解し、博物館における上の重要性を説明できること。②情報発信の課題や発信媒体としてのWebの活用などに関する基礎的知識を習得しそれを活用して学習することができること。③知的財産の管理方法と著作権の問題について基礎を理解し、適切な対応・行動できるようになることを目標とする。
授業時間外の学習	授業時の配布資料を予習・復習し、授業内で取り上げた博物館やWebサイトを訪問して、情報発信の方法（言語表現、発信方法、デザイン、機器など）に注意を払うこと。
評価方法	授業への参加意欲・態度（40%）、ミニテストあるいは試験（60%）、また、定期試験ができない場合はレポートにより評価する。 ※遠隔授業に変更した場合も、評価方法の変更なし。
テキスト	授業時に資料を適宜配布。
参考書	『博物館情報・メディア論』日本教育メディア学会（編）ぎょうせい 『博物館情報・メディア論』稲村哲也・近藤智嗣 日本放送大学教育振興会 『博物館学Ⅲ』大堀哲・水嶋英治 学文社
備考	新型コロナウイルスの感染状況によっては遠隔授業になることもあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
實松幸男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>一口に博物館といっても、実にさまざまな分野の博物館がある。博物館学芸員には、それぞれの博物館に即した専門的な資料取り扱いや梱包の技術と、展示、教育普及の技能が求められる。この実習では、実物の歴史資料を利用して、資料の種別に応じた取り扱いや梱包、保管・補修方法を、受講者による実演や作品の作成を通じて実習する。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>本授業は、実習による技術の理解と習得を目的とするものであるため、対面授業でのワークショップを中心に実施する。遠隔授業を実施する場合は③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）で実施するが、実技実習については補講を行う場合もあり得る。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス（実習の説明）</p> <p>2回目 資料を取り扱う前に（資料取り扱いの心得）</p> <p>3回目 資料の取り扱い（箱と紐）</p> <p>4回目 資料の取り扱い（掛け軸）</p> <p>5回目 資料の取り扱い（掛け軸）</p> <p>6回目 資料の取り扱い（掛け軸と巻物）</p> <p>7回目 資料の取り扱い（和装本の種類と綴じ方）</p> <p>8回目 資料の取り扱い（古文書の修復）</p> <p>9回目 資料の取り扱い（古文書の裏打ち）</p> <p>10回目 資料の取り扱いと梱包・設置（民具の検品調書作成）</p> <p>11回目 資料の取り扱いと梱包・設置（民具の梱包）</p> <p>12回目 資料の取り扱いと梱包・設置（民具の輸送・設置・検品）</p> <p>13回目 資料の取り扱い（刀の知識と手入れ）</p> <p>14回目 資料の取り扱い（甲冑）</p> <p>15回目 実習のまとめ（基本の確認）</p>
到達目標	博物館資料のうち、おもに歴史資料の取り扱いについて、種別に応じた梱包・所作・作法・保存・手入れ・修復の基本的な知識と技能を習得できる。
授業時間外の学習	資料や物品を取り扱う時、材質・形状・大きさ・構造についてよく見極めてから取り扱うよう、日常の意識を高める。博物館見学の際は、資料が傷まない設置の仕方や取り扱い方について、学生自身が展示資料を取り扱っていると想定して考え、記録しておくこと（博物館メモの作成）。
評価方法	実習への参加意欲（30%）、実演による技能の習熟度（35%）、課題や作品の提出（35%）により評価する。 遠隔授業となった場合には、実習への参加意欲（30%）、実演による技術の習熟度と作品の提出（40%）、授業時課題の提出（30%）により評価する。
テキスト	教科書を使用せず。授業時にレジュメを配布する。
参考書	田辺三郎助他監修『美術工芸品の保存と保管』（フジテクノシステム 1994年） 日本博物館協会編『第2次改訂版 博物館資料取り扱いガイドブック』（ぎょうせい 2023年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	資格必修
担当教員			
藤田典夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本科目は、さまざまな博物館の分野のなかでも、考古資料を中心にした歴史資料の取り扱い方と調査方法・展示方法・教育普及の基礎を学ぶことをねらいとする。この講義では、学芸員としての実務的観点から実習を中心におこなう。</p> <p>実物の考古資料等を活用して、その取り扱い方、調査方法、展示方法を実習する。また、保管方法、梱包方法などについても触れる。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の説明 参考館の見学</p> <p>2回目 博物館活動の一例</p> <p>3回目 ワークショップー勾玉作りー</p> <p>4回目 博物館資料取り扱いの基礎知識</p> <p>5回目 考古資料の取り扱い方</p> <p>6回目 資料調査の基本的技術1ー洗浄ー</p> <p>7回目 資料調査の基本的技術2ー注記・接合ー</p> <p>8回目 資料調査の基本的技術3ー拓本ー</p> <p>9回目 資料調査の基本的技術4ー実測ー</p> <p>10回目 資料調査の基本的技術5ー実測その2ー</p> <p>11回目 資料調査の基本的技術6ー復元ー・7ー写真撮影ー</p> <p>12回目 考古資料等の教育・普及</p> <p>13回目 展覧会の計画と実施</p> <p>14回目 考古資料の展示ー参考館にてー</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	考古資料の取り扱い方や実習を通して博物館資料としての調査記録の重要性を理解することができる。
授業時間外の学習	博物館見学の際に、鑑賞するだけでなく、その資料の特徴を掴むよう努力する。
評価方法	講義への参加意欲・態度（45%）、技能の習熟度（25%）、課題（30%）で総合的に評価する。遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	資格必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>・グラフィックソフトの基本的操作方法や、スキャナーで画像の取り込み、加工方法について実際の作業を通して学ぶ。また、実際に展示ポスターやパンフレットの作成作業を行う。</p> <p>・國學院大學栃木短期大学参考館の展示解説パネルの作成を行う。</p> <p>※授業期間内に終了しない場合、補講を行う</p> <p>※1年生と合同で栃木県内の実務見学実習を実施する</p> <p>日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。教養科目と専門科目の学習を通じて、幅広い視野・知識・技能とコミュニケーション能力を身につけ、希望の進路に進むことができる。学習成果の指標はA-③です。</p> <p>遠隔授業の場合、課題型・リアルタイム双方向型を併用する</p>
授業計画	<p>1回目 参考館の現状確認</p> <p>2回目 対象資料の選定</p> <p>3回目 長焦点法での写真撮影と実測図の作成（1） ・土器の撮影と実測</p> <p>4回目 長焦点法での写真撮影と実測図の作成（2） ・石器の撮影と実測</p> <p>5回目 スキャナーを用いた石器画像の取り込みと実測（1）</p> <p>6回目 スキャナーを用いた石器画像の取り込みと実測（2）</p> <p>7回目 実物展示レイアウト</p> <p>8回目 資料の取り扱い</p> <p>9回目 ジオラマの製作とその効果</p> <p>10回目 フィギュアの製作とその効果</p> <p>11回目 展示のレイアウト</p> <p>12回目 パネルとキャプションの作成</p> <p>13回目 展示実務</p> <p>14回目 展示解説</p> <p>15回目 展示パンフレットの作成</p>
到達目標	グラフィックソフトを使用して、展示ポスターやパンフレットを作成することができる 収蔵資料の特性を理解し、展示・解説することができる
授業時間外の学習	博物館・ギャラリー・ショウウィンドウや各種ポスター・チラシなど多くの「展示・広報媒体」を見て、そのデザインや技術を観察すること
評価方法	平常点で評価：展示コンセプトの理解（30%）、資料の理解（30%）、実務への取り組み（40%） （遠隔の場合も同様）
テキスト	なし
参考書	授業時に紹介する。
備考	グラフィックソフトを用いての実習を行うので、ノートPC（できればWindows10以上）を持参すること。